

## 第二部 付属語ノ部

(助動詞・助詞)

お→を

か〈助〉 参照一かは

かくあさましきうきよかは 32\*㊟  
 同じうきよかはと思う給ふべき 34\*㊟  
 誰に問はましか 38㊟  
 うきよかはとも誰か問ふべき 40\*㊟  
 誰か問ふべき 40㊟  
 君のみか我もさこそは 63㊟  
 などか渡り給はぬ 73㊟  
 まことか 76㊟  
 身をすみがまかこまもたえせぬ 99㊟  
 法師は鏡は見ぬかて 100㊟  
 これかと思へば 120㊟  
 いづれか露のおきはまさると 126㊟  
 忘ることもしみのわかきか 139㊟  
 などかこの君を山に入り給ふべく見給ひぬ  
 べきことはあらせたてまつり給ひし  
 151㊟  
 君かて 173㊟  
 うきよかは 204\*㊟  
 かかりてふよかはともへど 207\*㊟  
 かくはなり給ひしにか 232㊟  
 ててきかと 239㊟  
 などか…見えざらむ 240㊟  
 山の君のかはりかて 256㊟  
 なにかわが身を思ふべき 280㊟

里へ出で給ふまじとあるはまことか 284㊟

が〈助〉

わが入らむ 13㊟  
 君が心に 49㊟  
 わが身にも 52㊟  
 君がみやまに 52㊟  
 鳥にわが身を 54㊟  
 見え給はぬがうき世の中にかへらじとにや  
 あらむと 81㊟  
 わがみやまこそ 87㊟  
 君が住む 92㊟  
 きみが影もや 103㊟  
 君がながめを 113㊟  
 わがすみか 116㊟  
 君がすみかは 120㊟  
 誰がことごと 123㊟  
 君が着し 124㊟  
 我が身ひとつは 149㊟  
 それが聞え給ふ 151㊟  
 きみが入りにし 194㊟  
 わがみやまにも 203㊟  
 きみがたにのみ 204㊟  
 君がすむ 209㊟  
 わがごとく 220㊟  
 君がすむ 226㊟  
 君がぬるらむ 230㊟

君がすむ 235歌  
 わがなきたまは 235歌  
 君が影みば 237歌  
 わが涙こそ 244歌  
 みかさの君がかはりと 259歌  
 君がかざしの 267歌  
 君がため 269歌  
 わがために 271歌  
 君が折りける 271歌  
 なにかわが身を 280歌  
 君がため 298歌  
 御ぞたてまつれ給ふがかならずわれとたて  
     まつらむとのたまひければ 306歌  
 きみが影 309歌  
 わがために 311歌  
 きみがため 313歌  
 わが北の方には 317歌

## かし〈助〉

かたらひきこえ給へかし 74会  
 影も見よかし 101歌  
 今よりならひ給へかし 129会  
 立つ影だにも見えよかし 246歌

## かな〈助〉

あさましきわざかな 20会  
 思ひやるかな 113歌  
 かひもありけるかな 119会  
 見えぬかな 200歌  
 ぬらしつるかな 257歌  
 なほぬるかな 265歌  
 ぬれまさるかな 300歌  
 からごろもかな 316歌

## かは〈係助〉 参照一か

みるめかづかであらむものかは 109歌

君がぬるらむ露はものかは 230歌

## から〈助〉

われからととも 170\*歌

## き〈助動〉

せ〈未〉

なかりせば 196歌

し〈体〉

かしづき給ひしに 3地

かかりておほせしに 3地

おほししを 4地

あはれにありし君が心に 49歌

うらみこそむかまほしき世なりとも  
78歌

出でてこし人の家路も 87歌

うき世の中にながれいでにし 92歌

佩き給ひし御佩刀の 95地

見給ひし御鏡を 100地

常に見し鏡の山は 101歌

恋ひて寝し君なき床の 118歌

君が着しきぬにしあらば 124歌

あはれとのたまひし御姿の 146歌

心かけきこえたりし人も 151地

などかこの君を山に入り給ふべく見給ひぬ  
べきことはあらせたてまつり給ひし

152会

物思はせ給へりし報いに 153会

やどのありしえに 181会

君やうゑし 189歌

われやおほしし 189歌

きてねしひとも 193歌

きみが入りにし 194歌

撫でておほししなでしこの 198歌

おもひしを 198歌

まちかかりしに 202歌

出家し給へりし御姿にて 231㊤  
 かくはなり給ひしにか 232㊤  
 入りにしおきなどもの 286㊤  
 しかく巳  
 まろこそ昔山住みはせんとこそ思ひしか  
 152㊤  
 しばしこそあはれがり給ひしか 185㊤  
 思うたまへしかど 216㊤  
 失せ給ひにしかば 217㊤  
 たちてありかむとこそ思ひしか 261㊤

## けむく助動

## けむく体

ぬれけむそでも 316㊤

## けりく助動

## けりく止

泣きまどひ給ひけり 20㊤  
 驚きてけり 23㊤  
 泣きまどひ給ひけり 23㊤  
 泣き給ひけり 27㊤  
 まるり給ひたりけり 42㊤  
 あはれがり給ひけり 104㊤  
 御文にてもありけり 105㊤  
 とぶらひけり 151㊤  
 聞え給ひけり 167㊤  
 つたへ給へりけり 172㊤  
 御方につたへ給へりけり 172㊤  
 起き給へりけるほどなりけり 174㊤  
 あとふりにけり 211㊤  
 みやまなりけり 274㊤  
 ころもたちけり 313㊤  
 けるく体  
 おはしけるほどは 1㊤  
 御心ありけるうちに 5㊤  
 おぼしてなむきこえ給ひける 8㊤

おはしける室におはし 16㊤  
 なほ剃り給ひける 20㊤  
 物もまゐらで泣き給ひける 24㊤  
 夜なかにぞおはしける 25㊤  
 愛宮となむ物もきこしめさず泣きまどひ給  
 ひける 26㊤  
 御許になむ常に悲しきことをも通はし給ひ  
 ける 28㊤  
 …となむきこえ給ひける 41㊤  
 あはれなることをなむ聞えかはし給ひける  
 41㊤  
 聞え給ひけるを 45㊤  
 かくて愛宮の御許よりきこえ給ひける  
 55㊤  
 ととききとぶらひきこえ給ひける 62㊤  
 ことにぞありける 103㊤  
 御精進をぞなほし給ひける 110㊤  
 かひもありけるかな 119㊤  
 …となむ聞え給ひける 127㊤  
 御袴ぞかいねりなりける 127㊤  
 衣のすそぞ露けかりける 132㊤  
 …となんありける 134㊤  
 …とぞのたまひける 135㊤  
 おこなひなんよくよくし給ひける 136㊤  
 父大殿をなむいとよく恋ひたてまつり  
 給ひける 136㊤  
 桃園の大姫君のたてまつり給ひける 137㊤  
 絵にかきたるさへなむ悲しう侍りける  
 140㊤  
 思ひすてられける忍草 141㊤  
 しのぶの草ぞおひまさりける 143㊤  
 怠り侍りにける 144㊤  
 …となむありける 150㊤  
 悲しさぞまさりける 156㊤  
 うれしかりける君かるとて 173㊤  
 起き給へりけるほどなりけり 174㊤

愛宮ぞおぼしやむことなかりける 185㊤  
 …となむありける 205㊤  
 具しておはしたりけるに 206㊤  
 泣きて聞え給ひける 231㊤  
 すまひし給ひけるを 234㊤  
 あはれなることがちになむありける 248㊤  
 雛鶴みるぞ悲しかりける 250㊤  
 涙のこきでぞおはしましける 260㊤  
 …とぞのたまひける 261㊤  
 いかがはせむとぞありき給ひける 262㊤  
 うれしげもなくぞしほたれ給ひける 264㊤  
 うけたまはる人の聞えける 266㊤  
 君が折りける花みれば 271㊤  
 花たててなむ行ひ給ひける 272㊤  
 ゆづりてぞ横川に龜もたちのぼりける  
 278㊤  
 そはりける露もたえせぬ 300㊤  
 ひとかさねなむたてまつれ給ひける 307㊤  
 なみのぬひけるころも川 311㊤  
 …となむきこえ給へりける 317㊤  
 いみじうあはれとなむ…とりわきて泣き給  
 ひける 318㊤  
 けれ(巳)  
 御心ありけれど 1㊤  
 制しきこえ給ひければ 1㊤  
 えおぼしたたざりけれど 1㊤  
 御めのとおはしけれど 5㊤  
 きこえ給ひければ 7㊤  
 きこえ給ひければ 8㊤  
 笑ひ給ひければ 9㊤  
 出で給ひければ 9㊤  
 のたまひければ 14㊤  
 きこえ給ひけれど 15㊤  
 いで給ひければ 15㊤  
 のたまひければ 17㊤  
 うけたまはらざりければ 19㊤

切り給ひにければ 19㊤  
 きこえ給ひければ 22㊤  
 ののしりければ 22㊤  
 きこえ給ひければ 29㊤  
 きこえ給ひければ 33㊤  
 人ありければ 42㊤  
 聞え給ひければ 48㊤  
 驚なきければ 51㊤  
 みやまこそ住みよかりけれ 87㊤  
 ぬれたりければ 93㊤  
 きこえ給ひければ 96㊤  
 聞え給ひければ 98㊤  
 たてまつりければ 121㊤  
 おはしければ 186㊤  
 降りたりければ 206㊤  
 のたまひけれど 262㊤  
 龜山とこそいふべかりけれ 276㊤  
 のたまひければ 306㊤

## こそ(助)

かへり給へらむをこそは法師かへるとは見  
 め 9㊤  
 おのれをこそこのたまはめ 21㊤  
 入らざらむこそかひなけれど 30㊤  
 うからねばこそ登りおはすらめど 35㊤  
 なきにこそは 38㊤  
 人にこそ問ひきこえめ 38㊤  
 うからねばこそ 39㊤  
 えこそ通はね 52㊤  
 われもきこそはするがなる田子の浦波たち  
 やまずして 59㊤  
 我もきこそは世の中をあなうの花となくほ  
 ととぎす 63㊤  
 もろごゑにこそなまほしけれ 68㊤  
 さもこそは世はそむき給はめ 74㊤  
 今こそあはれな 75㊤

これよりこそ聞えまほしけれど 79㊦  
 世の中にこそ思ひかへりこめと 82㊦  
 みやまこそ住みよかりけれ 87㊦  
 魚食はむこそゆゆしけれとて 110㊦  
 苔の衣などのみこそ身には添ひたれ 128㊦  
 つれづれの御すまひなればにこそ 141㊦  
 のたまふなるこそいととおぼつかなけれ  
 148㊦  
 まろこそ昔山住みはせんと思ひしか 152㊦  
 人もこそ聞け 184㊦  
 しばしこそあはれがり給ひしか 185㊦  
 かたみにさこそ 201㊦  
 よとともこそ 203㊦  
 おのれこそかしらそらむ山へ入らむと思ふ  
 たまへしかど 216㊦  
 弟子まさりにこそあなれ 218㊦  
 山にこそ入り侍らめ 219㊦  
 君は袖こそ露にぬるなれ 228㊦  
 山水にこそ袖ひつれ 230㊦  
 母君こそててきにはあらず 240㊦  
 わが涙こそかはと流るれ 244㊦  
 ありかむとこそ思ひしか 261㊦  
 亀山とこそいふべかりけれ 276㊦  
 ここにこそ人かずに侍らねどちちなしごを  
 もてわづらひぬれ 282㊦  
 忘れ草こそ生ひたらめ 290㊦  
 これよりこそ山菅のやうなりとも御衣はた  
 てまつれまほしけれ 314㊦  
 かたみにとこそ見たてまつれ 317㊦

ごとしく助動

ごとく幹

露のごとよひあかつきにおくなれば 303㊦  
 ごとくく用  
 わがごとく罪深き山いづこなるらん 220㊦

さすく助動

させく用

袈裟より初めてひとくだりせさせ給ひて  
 121㊦  
 いかにせさせ給へらむと 315㊦

さへく助

絵にかきたるさへなむ悲しう侍りける  
 140㊦  
 尼にならむとさへのたまふなる 161㊦  
 精進をさへし給ふなれば 163㊦  
 すまひさへかはりたれば 177㊦  
 身さへぞわれはそぼちぬる 228㊦  
 かめさへのぼる 274㊦

しく助 参照一しも

君し入らば 11㊦  
 きぬにしあらば 124㊦  
 身をしかくきぬ 170㊦  
 横川の水しにごらずは 235㊦

じく助動

じく止

つゆも忘れじ 13㊦  
 かへらじとにやあらむと 82㊦  
 同じ山にはえしもあらじ 107㊦  
 さらに京に出でじとぞ 135㊦  
 なぐさむらむをいでじと 147㊦  
 あひ答へずはあらじとぞ思ふ 155㊦  
 かぜにあてじと 189㊦  
 露にもあてじと 198㊦  
 都へもさらにかへらじ 220㊦  
 水もにごらじ 237㊦  
 かくしもあらじ 269㊦

じく体

あめはもらじを 267㊦

思ひいでじを 289㊦

## しが〈助〉

わが身をなしてしが 54㊦

いまも見てしが 199㊦

## して〈助〉

剃刀して切り給ひにければ 19㊦

たちやまずして 59㊦

## しも〈助〉

同じ山にはえしもあらし 107㊦

山の端はかくしもあらし 269㊦

## す〈助動〉

## せ〈用〉

常に問はせ給ふことなむ 69㊦

すべてすべてただおしはからせ 70㊦

うれしう問はせ給へるなむ 79㊦

とぶらはせ給ふを喜びてぞ 80㊦

人に物思はせ給へりし報いに 152㊦

あらせたてまつり給ひし 152㊦

常に問はせ給へるをなん 168㊦

問はせ給へるなん 178㊦

嬉しく立寄りて問はせ給へるを 183㊦

## ず〈助動〉 参照—おもはずに

## ざら〈未〉

同じ山には入らざらむこそ 30㊦

同じやうにしり給はざらむをなむ 34㊦

おとさざらなん 182㊦

つゆのいのちやあへざらむ 190㊦

ててきの久しく見えざらむ 240㊦

## ず〈用〉

きこえあへずなりぬる 21㊦

物もおぼえ給はずあさましきに 23㊦

物もきこしめさず泣きまどひ 26㊦

妹をみずはといふことも 38㊦

たちやまずして 59㊦

いかにつきせずおぼすらむ 66㊦

思ひたたずなむ 83㊦

今日の御かたちは知らず昔のみ面影には見

え給ふ 140㊦

うとからずや御覧すらむ 141㊦

いかにねぶたからずおぼすらむ 153㊦

山彦のあひ答へずは 155㊦

涙とどめずそこにおぼすらむを 161㊦

つかまわすれず 202㊦

おとらずぞ 202㊦

ふちも知らずは 204㊦

横川の水しにごらずは 235㊦

あふことのかたみも知らず浦になく 250㊦

ころもさだめず今よりぞしく 305㊦

## ざり〈用〉

えおぼしたたざりけれど 1㊦

うけたまはらざりければ 19㊦

## ず〈止〉

あはれにもあらず 45㊦

人の家路も思ほえず 87㊦

苔の衣は風もとまらず 133㊦

かへりごとし給はず 156㊦

あひも答へず 158㊦

うき世をば離れずや 164㊦

思ひも定めず 171㊦

えしばしばも聞え侍らず 175㊦

歌の返しは聞え給はず 184㊦

あらずとのたまへば 240㊦

ててきにはあらず 240㊦

たがはずや同じみかきの山の井の 257㊦

つかさもことに嬉しからず 260㊦

## ぬ〈体〉

思はぬ山に 11㊦  
 などえのぼり給はぬ 15㊦  
 けふりたえせぬ 56㊦  
 つきせぬことには 69㊦  
 かたらはぬさきよりにきつ 71㊦  
 思うたまへられてなむしばしも聞えぬ  
 73㊦

などか渡り給はぬ 73㊦  
 心になはぬをりは 75㊦  
 みるめかつかぬあまになるなよ 78㊦  
 物おぼえぬになむ 81㊦  
 見え給はぬが 81㊦  
 身をすみがまかこまもたえせぬ 99㊦  
 鏡は見ぬか 100㊦  
 しほうらこえぬ山なれど 114㊦  
 身にも合はぬものども 128㊦  
 つきせぬ物思ひは 145㊦  
 身をしかくさぬものなれば 170㊦  
 あらぬ身を 191㊦  
 知らぬ身も 193㊦  
 目に見えぬはなのかぜにや 198㊦  
 見えぬかな 200㊦  
 思はぬ山山に 217㊦  
 思はぬ山に 224㊦  
 などははきのもとにおはせぬ 249㊦  
 われをいだき給はぬ 249㊦  
 露もたえせぬ苔のきぬ 300㊦  
 ぬれけむそでもまだひぬに 316㊦

## ね&lt;巳&gt;

おはしまさねども 2㊦  
 さもあらねば 3㊦  
 うからねばこそ 35㊦  
 うからねばこそ 39㊦  
 そのすちにはあらねば 45㊦  
 えこそ通はね 52㊦  
 きぬにしあらねば 124㊦

着物にもあらねばや 129㊦  
 御姿の見えねば 146㊦  
 影も見えねば 178㊦  
 人かずに侍らねど 283㊦  
 たとふべきことにはあらねど 286㊦  
 恋しからねば 289㊦  
 ことなることおはせねど 301㊦  
 思ひしりてもあらねど 301㊦

## そ&lt;助&gt;

思ひないれそ 13㊦  
 しかなおほしそ 77㊦  
 なほしかなおほしそ 165㊦

## ぞ&lt;助&gt; 参照一なぞ

法師になり山へまかるぞ 7㊦  
 まことぞやときこえて 9㊦  
 夜なかにぞおはしける 25㊦  
 しかぞ又おほしめすなる 37㊦  
 喜びてぞそなたにも参らまほしきを 80㊦  
 かたちはことにぞありける 103㊦  
 うらみてぞへん 107㊦  
 御精進をぞなほし給ひける 110㊦  
 おひいでたるめぞや 115㊦  
 かくぞせんとあり 115㊦  
 巢のうち見てもねをぞなく 120㊦  
 誰がことぞとおぼめかれつる 123㊦  
 御袴ぞかいねりなりける 127㊦  
 衣のすそぞ露けかりける 132㊦  
 京に出でじとぞのたまひける 135㊦  
 しのぶの草ぞおひまさりける 143㊦  
 我が身ひとつは露のほどにぞ 149㊦  
 あらじとぞ思ふ 155㊦  
 悲しさぞまさりける 156㊦  
 さぞおぼすらむ 161㊦  
 ここにぞうき世をばそむきはてなむと

## 162㊦

まどはれぞする 173㊦  
 いかにぞや 181㊦  
 愛宮ぞおぼしやむことなかりける 185㊦  
 いまぞけぬべき 190㊦  
 絶えぬばかりぞおもほゆる 191㊦  
 やどにしげくぞ 192㊦  
 まくらがみをぞおもほしきことかたらはん  
 194㊦  
 思へばいとぞあはれなる 199㊦  
 おとらずぞあはれあはれと 202㊦  
 うれしきせをぞながれては見む 204㊦  
 そでぞぬれます 213㊦  
 うらやましとぞ思ふらむ 224㊦  
 身さへぞわれはそぼちぬる 228㊦  
 いとどしく袖ぞひちぬる 237㊦  
 語らひきこえ給ひてぞ泣き給ふ 238㊦  
 君は山にぞおはする 241㊦  
 われぞ悲しき 242㊦  
 雛鶴みるぞ悲しかりける 250㊦  
 わらはなきにぞわれも泣かるる 252㊦  
 なくを見るにぞわれも悲しき 254㊦  
 涙のこさでぞおはしましける 260㊦  
 …とそなたまひける 260㊦  
 いかがはせむとぞありき給ひける 262㊦  
 うれしげもなくぞしほたれ給ひける 263㊦  
 露にぬるるぞ 267㊦  
 ゆづりてぞ横川に亀もたちのほりける  
 278㊦  
 このかはぎぬぞ風はふせがむ 293㊦  
 袖ぞぬれぬる 295㊦  
 たちぬひたれば露ぞそふ 298㊦  
 今よりぞしく 305㊦  
 袖ぞぬれぬる 309㊦

## だに〈助〉

御消息をだにもきこえあへずなりぬる 21  
 ㊦  
 麓までだにと思ふ給ふるに 30㊦  
 御影をだに見るまじくとも 36㊦  
 心だに似ばあはれなりなむ 47㊦  
 影をだに見む 90㊦  
 若き人だに深く物をおぼすなれば 163㊦  
 おのれだになくは 187㊦  
 おとにだに聞かまほしきを 195㊦  
 立つ影だにも見よかし 246㊦  
 かたみとてだになぐさまで 252㊦  
 山にだにおはしませば 282㊦  
 御命だにおはせば 284㊦  
 きてだになれむ 311㊦

## たり〈助動〉

## たら〈未〉

親ににたらば 254㊦  
 忘れ草こそ生ひたらめ 290㊦

## たり〈用〉

まるり給ひたりけりと 42㊦  
 涙のかかりぬれたりければ 93㊦  
 心かけきこえたりし人も 151㊦  
 わりご具しておはしたりけるに 206㊦  
 雨の降りたりければ 206㊦

## たり〈止〉

はじめていれたり 112㊦  
 むめすちばかりいれたり 112㊦

## たる〈体〉

持て参りたる御文に 102㊦  
 影もやそひたると 103㊦  
 精進物まるらせたるは 111㊦  
 おきたるめを 112㊦  
 おひいでたるめぞや 115㊦



太刀はきたるを見れば 140㊦  
 絵にかきたるさへ 140㊦  
 親たちにおくれたてまつりたるに 145㊦  
 太刀はきたるさまをも 175㊦  
 太刀はきたる姿も 179㊦  
 ふたばみつばにおひたるを 189㊦  
 太刀はきたる人みても 248㊦  
 そへられたる歌 297㊦

## たれ&lt;巳&gt;

苔の衣などのみこそ身には添ひたれ 128㊦  
 すまひさへかはりたれば 178㊦  
 たちぬひたれば 298㊦

## たれ&lt;命&gt;

山の端になほかかりたれ 13㊦

## つ&lt;助動&gt;

## て&lt;未&gt;

身をや投げてまし 186㊦  
 常に見せてむ 235㊦

## て&lt;用&gt;

驚きてけり 23㊦  
 わが身をなしてしが 54㊦  
 いまも見てしが 199㊦

## つ&lt;止&gt;

さきよりなきつ 71㊦  
 おぼめい給ひつらむ 129㊦

## つる&lt;体&gt;

おはしつるやう 88㊦  
 おぼめかれつる 123㊦  
 泣きてたちつる 124㊦  
 露のいのちをもとめつる 188㊦  
 ぬらしつるかな 257㊦  
 ふせぎとめつるかはぎぬの 295㊦

## つれ&lt;巳&gt;

みつれども 44㊦  
 嬉しかりつれども 183㊦

## つ&lt;助&gt;

参照一てづから・ようざりつかた

## つつ&lt;助&gt;

いそがれ給ひつつ 7㊦  
 …とのたまひつつ 50㊦  
 袖のひちつつ 80㊦  
 おもひつつ 189㊦  
 …と思ひつつ 199㊦  
 わりごしつつ 215㊦

## て&lt;助&gt;

参照一かくて・して・とて・とりわ  
 きて・にて・はじめて・まして・もて  
 ・わいて

1. 動詞（補助動詞を含む）につづくもの
2. 形容詞・形容動詞につづくもの
3. 助動詞（除、「なり」の連用形「に」）につづくもの

## 1. 動詞（補助動詞を含む）につづくもの

失せ給ひてのち 2㊦  
 かかりておはせしに 3㊦  
 かたらひきこえ給ひて 4㊦  
 おぼしてなむ 8㊦  
 きこえて笑ひ給ひければ 9㊦  
 きこえて出で給ひければ 9㊦  
 申し給ひて 14㊦  
 御許にまで給ひて 14㊦  
 きこえ給ひて 15㊦  
 出で給ひて 16㊦  
 比叡にのぼり給ひて 16㊦  
 禪師君を召して 16㊦  
 泣きてうけたまはらざりければ 19㊦  
 泣きまどひて 23㊦  
 はじめたてまつりて 24㊦  
 はじめたてまつりて 25㊦

かくいひて 27㊦  
 この世をそむきて 35㊦  
 横川をわたりて御影をだに見るまじくとも  
 36㊦  
 そむきても 36㊦  
 ながれても 40㊦  
 うちおき給ひて見まらせ給ひて 42㊦  
 見まらせ給ひて 43㊦  
 みたまひて 46㊦  
 なきて告ぐべく 54㊦  
 世をへて物を思ふ 56㊦  
 さめてくやしくなむ 57㊦  
 聞き給ひて 61㊦  
 卯の花につけて 62㊦  
 我はまさりてなくと知らなむ 65㊦  
 ことかたらひてほととぎす 68㊦  
 かしこまりてなむ 69㊦  
 しのびても 74㊦  
 いでても (74㊦)  
 喜びてぞ 80㊦  
 よにはしりて山路にまどふ心も 85㊦  
 出でてこし 87㊦  
 おはして 88㊦  
 麓にいでてながれなむ 90㊦  
 見たまひても 95㊦  
 あはれがり給ひて 98㊦  
 見たまひて 100㊦  
 山にもて参りたる 102㊦  
 常におはして 104㊦  
 聞きて 106㊦  
 うらみてぞへん 107㊦  
 きこしめして 111㊦  
 おぼして 111㊦  
 ころろざしありておひいでたるめぞや  
 115㊦  
 恋ひて寝し 118㊦

巢のうち見ても 120㊦  
 ひとくだりせさせ給ひて 121㊦  
 忘れては 123㊦  
 泣きてたちつる 124㊦  
 ぬれまさりてなん 131㊦  
 物思ひの添ひて侍れば 145㊦  
 立寄り給ひて 146㊦  
 生きてとなむ 150㊦  
 とまりて独寝し給ふころ 153㊦  
 思ひたてまつりて 154㊦  
 よしづいてとて 156㊦  
 またほどへて 157㊦  
 思ひたてまつりて 161㊦  
 かしらおろしては 162㊦  
 うしろのこして侍る 163㊦  
 あまとなりても 166㊦  
 かしこまりてうけたまはりぬ 168㊦  
 例よりもまさりて 169㊦  
 あやしう侍りてなむ 169㊦  
 忘れても 173㊦  
 昼寝して起き給へりけるほど 174㊦  
 いそぎて内へ参り侍れば 174㊦  
 しのびてをり給ふや 181㊦  
 立寄りて問はせ給へるを 183㊦  
 さしあやまちて 184㊦  
 おぼして 186㊦  
 思ひいでて 192㊦  
 うちはへて 193㊦  
 きてねしひとも 193㊦  
 来ても鳴かなん 194㊦  
 みづのながれて 195㊦  
 撫でておほしし 198㊦  
 見えても 200㊦  
 ながれては見む 204㊦  
 具しておはしたりけるに 206㊦  
 さみだれていとど涙に 207㊦

山路をわけてとふ人を 211㊦  
 思う給へて 217㊦  
 横川におはしまして泣きて 231㊦  
 泣きて聞え給ひける 231㊦  
 あまがけりても 234㊦  
 こひちかひ給ひて 238㊦  
 語らひきこえ給ひてぞ 238㊦  
 見給ひては 239㊦  
 御髪かきなでて 241㊦  
 見給ひてのたまふ 241㊦  
 恋ひてなく 242㊦  
 親こひてなく 244㊦  
 なきて恋ふるに 246㊦  
 人みても 248㊦  
 なり給ひて 255㊦  
 見給ひても 256㊦  
 思ひいで給ひて 260㊦  
 たちてありかむ 261㊦  
 人きて 263㊦  
 入り来ても 265㊦  
 四つばかり作りて 268㊦  
 花さして山にたてまつり 268㊦  
 みな聞え給ひて 272㊦  
 登りて見給ふ 272㊦  
 花たててなむ行ひ給ひける 272㊦  
 ゆづりてぞ 278㊦  
 いとひて山に入りぬれど 289㊦  
 青色に染めて 296㊦  
 思ひしりても 301㊦  
 ぐしてたてまつらむ 307㊦  
 きてだになれむ 311㊦  
 年をわたりて 311㊦  
**2. 形容詞・形容動詞につづくもの**  
 ともかくもなくしておとどの 3㊦  
 ことなることもなくて 6㊦  
 いとあさましくて 17㊦

いふかひなくて月ごろになりぬ 27㊦  
 やむよもなくてほどふれば 138㊦  
 われなくては 186㊦  
 君の思はずにておはすれば 217㊦

### 3. 助動詞(除、「なり」の連用形「に」)につづくもの

さわがしく思うたまへられてなむ 72㊦  
 ほだされて 195㊦

#### で〈助〉

見たてまつらでは 5㊦  
 きこえ給はで出で給ひて 16㊦  
 物もまるらで泣き給ひける 24㊦  
 物を聞えておはしふる 61㊦  
 あまならでそれにもしほは 84㊦  
 みるめかつかであらむものかは 109㊦  
 思ひ消えなで生きてとなむ 150㊦  
 いとどしくさまも見えで 184㊦  
 かくしたまはで失せ給ひしかば 217㊦  
 なぐさまでわらはなきにぞ 252㊦  
 涙のこさでぞ 260㊦

#### と〈助〉

参照—しかじかと・とて・など・ほ  
 のぼのと・よよと

1. 連用形につづくもの
2. 終止形につづくもの
3. 連体形につづくもの
4. 已然形につづくもの
5. 命令形につづくもの
6. 体言につづくもの
7. 助詞につづくもの
8. その他につづくもの

#### 1. 連用形につづくもの

いとにはかにあさましくと 22㊦  
 いみじくとあり 286㊦

#### 2. 終止形につづくもの

法師かへるとは見め 9㊦  
 法師にならむと侍るは 10㊦

露と消ぬべしときこえ給へば 12㊤  
 つゆも忘れじと申し給ひて 14㊤  
 ものきこえむとのたまひければ 14㊤  
 いそぎ物へまかるときこえ給ひて 15㊤  
 尼になりなむと泣き給ひけり 27㊤  
 きみすむべしと水のうへに 40㊤  
 まるり給ひたりけりと聞ゆる人 42㊤  
 ことになり給へりと聞けど 45㊤  
 あはれにもあらずと聞え給ひけるを 45㊤  
 あはれなりなむと聞え給ひければ 48㊤  
 君かく恋ふとなきて告ぐべく 54㊤  
 我はまさりてなくと知らなむ 65㊤  
 ものあはれを知れりと思へば 71㊤  
 尼にならむとのたまふなる 76㊤  
 かへらじとにやあらむと 82㊤  
 うきめかづくとまたはなるべき 84㊤  
 男はおほし通ひたふと 89㊤  
 影をだに見むとのたまへば 91㊤  
 尼になりなむとのたまふを 106㊤  
 風もとまらずとなん 134㊤  
 京に出でじとぞ 135㊤  
 これよりも聞えむと思ふ給ふれど 144㊤  
 なぐさむらむをいでじとのたまふなる  
 147㊤  
 山住みはせんと思ひしか 152㊤  
 あひ答へずはあらじとぞ思ふ 155㊤  
 尼にならむときへのたまふなる 161㊤  
 かうぶりとられなんと人のものすれば  
 163㊤  
 水風のいもひをせましとなむ 164㊤  
 舟ながすほどひさしといふなるを 166㊤  
 ながめかるとふと聞え給ひけり 167㊤  
 うきめかるとうけたまはれば 171㊤  
 思ひも定めずと聞え給へり 171㊤  
 姿も見給はむとあらば 179㊤  
 かぜにあてじと 189㊤

いかでおほさむと 190㊤  
 世をうしと 194㊤  
 露にもあてじと 198㊤  
 生ふと知らなむ 203㊤  
 山へ入らむと思ふたまへしかど 216㊤  
 罪深くなると思ふ給へて 217㊤  
 君をなほうらやましとぞ 224㊤  
 かかりとならば (234㊤)  
 水もにごらじと聞え給ふほどに 238㊤  
 あらずとのたまへば 240㊤  
 ことに嬉しからずとぞのたまひける 260㊤  
 たちてありかむとこそ 261㊤  
 里へ出で給ふまじとあるは 284㊤  
 山に年へむとおもへども 285㊤  
 山は寒しといふなれば 293㊤  
 われとたてまつらむとのたまひければ  
 306㊤

### 3. 連体形につづくもの

などえのぼり給はぬときこえ給ひけれど  
 15㊤  
 きこえあへずなりぬると泣く 21㊤  
 誰に問はましと愛宮に 33㊤  
 誰に問はましとか 38㊤  
 誰か問ふべきとなむ 41㊤  
 かへらじとにやあらむと 82㊤  
 涙の流れ出でぬるときこえ給ひければ  
 96㊤  
 鏡の山はいかがあるとかたちかはれる  
 101㊤  
 きみが影もやそひたると見れば 103㊤  
 かくぞせんとあり 115㊤  
 いづれか露のおきはまさると 126㊤  
 いかにねふたからずおぼすらむと思ひ  
 154㊤  
 ここにぞうき世をばそむきはてなむと  
 162㊤

身をや投げてましとおぼせど 186㊤  
 いかがせむとおぼして 186㊤  
 いかがせんと思ふに 187㊤  
 はなのかせにやあたるらむと思へば 199㊤  
 うれしきせをぞながれては見むとなむ  
 205㊤  
 そでぞぬれますとなむ 214㊤  
 弟子にもやなりなましと思ふ給ふる 218㊤  
 思ふ給ふるとのたまへば 218㊤  
 いかがはせむとぞありき給ひける 262㊤  
 このかはぎぬぞ風はふせがむとてなむたて  
 まつるとあり 293㊤  
 きみが影みえもやするところも川 309㊤  
 めのの清らなると 312㊤  
 いかにせさせ給へらむと 315㊤

#### 4. 已然形につづくもの

かへり給へらむをこそは法師かへるとは見  
 めときこえて 9㊤  
 おのれこそそのたまはめと 21㊤  
 もろごゑにこそなかまほしけれと 68㊤  
 世の中にこそ思ひかへりこめと思ふたまふ  
 れば 82㊤  
 弟子まさりにこそあなれと聞え給へば  
 218㊤

忘れ草こそ生ひたらめとなむ 290㊤  
 かたみにこそ見たてまつれとなむ 317㊤

#### 5. 命令形につづくもの

かしら剃れとのたまひければ 16㊤  
 剃れとのたまふ 19㊤  
 ひとたびにり給へと愛宮の 29㊤

#### 6. 体言につづくもの

みな心とおはしませば 2㊤  
 例のことと 7㊤  
 あはれとも思はぬ山に 11㊤  
 露と消ぬべし 11㊤  
 御乳母と愛宮となむ 26㊤

御乳母と愛宮となむ 26㊤  
 山にてもといふこととあらば（「山にても  
 といふこともあらば」ノ誤カ） 35㊤  
 うぐひすと泣きをれど 52㊤  
 あなうの花となくほととぎす 63㊤  
 あはれとおぼして 111㊤  
 あはれとのたまひし 146㊤  
 あはれといはば 155㊤  
 ないしかみのぬしといふなれば 162㊤  
 あまとなりても 166㊤  
 よとともにこそ 203\*㊤  
 あはれと思へど 211㊤  
 弟子まさりとおぼさば 219㊤  
 かはと流るれ 244㊤  
 君がかはりと思へば 259㊤  
 悲しきこととのたまひけれど 262㊤  
 ものといふとも 274㊤  
 亀山とこそ 276㊤  
 なにとは思はむ 283㊤  
 われとたてまつらむと 306㊤  
 われとぐして 307㊤  
 いみじうあはれとなむ 317㊤

#### 7. 助詞につづくもの

山へまかるぞときこえ給ひければ 7㊤  
 まことにこのたびはときこえ給ひければ  
 8㊤  
 まことぞやときこえて 9㊤  
 ここにもとなむ 29㊤  
 麓までだにと思ふ給ふるに 30㊤  
 尼にと思ひたまふれど 34㊤  
 同じうきよかはと思ふ給ふべき 34㊤  
 山にてもといふことも 35㊤  
 山にてもといふこともあらばとなむ 35㊤  
 御ともにもと 37㊤  
 妹をみずはといふことも 38㊤  
 うきよかはとも 40㊤

なにはおふやとみつれども 44㊦  
 君が心にとのたまひつつ 50㊦  
 くやしくなむときこえ 57㊦  
 たちやまずしてとなむ 60㊦  
 さもやと思うたまふれども 82㊦  
 おひいでたるめぞやとあり 115㊦  
 これかと思へば 120㊦  
 誰がことぞとおぼめかれつる 123㊦  
 おきはまさるととなむ 127㊦  
 生きてとなむ 150㊦  
 見給ふとてなむと聞え給へる (176㊦)  
 問はせ給へるなんと聞え給へば 178㊦  
 おとさざらなんと聞え給へれば 183㊦  
 いまも見てしがと思ひつつ 199㊦  
 かかりてふよかはともへど 207㊦  
 ててきかとのたまふに (239㊦)  
 かくなむと聞え給へれば 288㊦  
 ただのと 314㊦

#### 8. その他の語につづくもの

そこにもいかにとなむ 57㊦  
 あはれあはれときこゆ 114㊦  
 そこにはいかがとなむ 141㊦  
 あはれあはれと 203㊦  
 あはれあはれと見たまふるに 315㊦  
 かたみにとこそ 317㊦

#### どく助〉 参照—されど

かかる御心ありけれど 1㊦  
 えおぼしたたざりけれど 1㊦  
 えおはしますまじけれど 5㊦  
 御めのとのおはしけれど 6㊦  
 きこえ給ひけれど 15㊦  
 かひなけれど 30㊦  
 登りおはすらめど 35㊦  
 ことになり給へりと聞けど 45㊦  
 世をうぐひすと泣きをれど 52㊦

通はまほしくなむ思へど 75㊦  
 山へ入りぬべきをりあれど 76㊦  
 聞えまほしけれど 79㊦  
 山なれど 114㊦  
 身にも合はぬものどもなれど 128㊦  
 聞えむと思う給ふれど 144㊦  
 申さまほしう思う給ふれど 168㊦  
 身をや投げてましとおぼせど 186㊦  
 うちまどろめど 200㊦  
 よかはともへど 207㊦  
 あはれと思へど 211㊦  
 山へ入らむと思うたまへしかど 216㊦  
 今に思ひ侍れど 217㊦  
 尊とけれどいと悲しくなむ 232㊦  
 さはあれどいとくちをしくなむ 233㊦  
 悲しきこととのたまひけれど 262㊦  
 歌ひののしれど 263㊦  
 名にはたてれど 276㊦  
 人かずに侍らねど 283㊦  
 たとふべきことにはあらねど 286㊦  
 年をふれど逢ふことなく侍れば 286㊦  
 いとひて山に入りぬれど 289㊦  
 夏なれど山は寒しといふなれば 293㊦  
 ことなることおはせねど 301㊦  
 思ひしりてもあらねど 301㊦

#### とて〈助〉

我をいとひ給ふなめりとて 10㊦  
 御心がはりやし給へるとて 17㊦  
 いかがはせむとて 20㊦  
 登り給ふとて夜なかにぞおはしける 25㊦  
 法師は鏡は見ぬかとて 100㊦  
 魚食はむこそゆゆしけれどとて 110㊦  
 よしづいてとて 156㊦  
 見まほしとてない給ふ 159㊦  
 あまとても身をしかくさぬものなれば

170歌  
 われからとても 170歌  
 うれしかりける君かとして 173歌  
 いかにとて 175歌  
 えしばしばも聞え侍らずとて 175歌  
 見給ふとてなむ 175歌  
 ゑりくぐつにてもさぶらはむとて出で給ひ  
 ぬ 179歌  
 いとどしくさまも見えとて 184歌  
 ただひとゑとて 192歌  
 見ゆやとて 200歌  
 いづくならむとて六郎ぎみ 219歌  
 なにをうしとて 232歌  
 よにおち給ふなとて 234歌  
 ててきの久しく見えざらむとて泣き給へば  
 240歌  
 君は山にぞおはするとて泣き給ふを 241歌  
 なきて恋ふるにとて泣きたまふ 247歌  
 われをいだき給はぬとてなげき給へば  
 249歌  
 かたみとてだに 252歌  
 山の君のかはりかとして 256歌  
 山にたてまつり給ふとて 268歌  
 風はふせがむとてなむ 293歌  
 よるとても 305歌  
 ぐしてたてまつらむとて 307歌  
 われなにわぎをせんとて 312歌  
 御湯殿するかるらむにとて 312歌

とも〈助〉

誰もなるとも 30歌  
 御影をだに見るまじくとも 36歌  
 かたちはことになれりとも 47歌  
 もとむともかひやなからむ 49歌  
 なほ思ふ思ふともあさまし 66歌  
 そむかまほしき世なりとも 78歌

うらに住むものといふとも 274歌  
 山菅のやうなりとも 314歌

ども〈助〉

おとどおはしまさねども 2歌  
 尼にと思ひたまふれども 34歌  
 なにはおふやとみつれども 44歌  
 さもやと思うたまふれども 82歌  
 それにもしほはたるれども 84歌  
 呼べどもさらにあひも答へず 158歌  
 あやしけれども 174歌  
 はじめは嬉しかりつれども 183歌  
 おもへども 190歌  
 住まへども 202歌  
 山に年へむとおもへども 285歌

なく〈助〉

今こそあはれな 75歌  
 あまになるなよ 78歌  
 かひなくおぼすな 114歌  
 よにおち給ふなとて 234歌

ながら〈助〉

立ちながら出で給へば 14歌  
 立ちながら聞え侍る 174歌  
 くもるながらも 202歌

など〈助〉

御妹の君なども泣きまどひ 23歌  
 苔の衣などのみこそ 128歌  
 いとくちをしくなむあるなどのたまへば  
 233歌  
 さてこの花など 272歌

なむ〈係助〉

おぼしてなむきこえ給ひける 8歌

かうかうなむいとにはかにあさましく

22㊤

愛宮となむ物もきこしめさず泣きまどひける 26㊤

御許になむ常に悲しきことをも通はし給ひける 27㊤

ここにもとなむ思ひ給ふる 29㊤

同じやうにしり給はざらむをなむ 34㊤

山にてもといふこともあらばとなむきこえまほしきを 35㊤

誰か問ふべきとなむきこえ給ひける 41㊤

あはれなることをなむ聞えかはし給ひける 41㊤

いかにとなむ思ひきこゆる 57㊤

さめてくやくくなむ 57㊤

たちやまずしてとなむ 60㊤

かしこまりてなむ 69㊤

常に問はせ給ふことなむつきせぬことには 69㊤

物さわがしく思うたまへられてなむしばしも聞えぬ 72㊤

さて通はまほしくなむ思へど 75㊤

いとうれしう問はせ給へるなむ 79㊤

物おぼえぬになむ 81㊤

まだ思ひたらずなむ 83㊤

おきはまさるととなむ聞え給ひける 127㊤

御心ざしあるものどもにてなむ賜はりぬる 129㊤

ぬれまさりてなん 131㊤

風もとまらずとなむありける 134㊤

おこなひなんよくよくし給ひける 135㊤

父大殿をなむいとよく恋ひたてまつり給ひける 136㊤

絵にかきたるさへなむ悲しう侍りける

140㊤

いかがとなむきこえ侍る 141㊤

思ひ消えなで生きてとなむありける 150㊤

いとあはれになむ 160㊤

人のものすればなむいささかうしろのこして侍る 163㊤

水風のいもひをせましとなむ 164㊤

常に問はせ給へるをなん 168㊤

あやしう侍りてなむながめ侍る 169㊤

内へ参り侍ればなん 175㊤

太刀はきたるさまをも見給ふとてなむ 175㊤

いそぎ給へばなん 176㊤

おぼつかなくなむ 177㊤

それにもあはれになん 177㊤

問はせ給へるなん 178㊤

ながれては見むとなむありける 205㊤

そでぞぬれますとなむ 214㊤

いと悲しくなむ 232㊤

いとくちをしくなむある 233㊤

あはれなることがちになむありける 248㊤

花たててなむ行ひ給ひける 272㊤

御すまひのあはれなるをなむ 284㊤

かくなむと聞え給へれば 288㊤

忘れ草こそ生ひたらめとなむ 290㊤

風はふせがむとてなむたてまつる 293㊤

ひとかさねなむたてまつれ給ひける 307㊤

かたみにとこそ見たてまつれとなむきこえ給へりける 317㊤

いみじうあはれとなむ…泣き給ひける 317㊤

いみじくあはれになむ 319㊤

### なむ<終助>

なくと知らなむ 65㊤

おとさざらなん 182㊤

来ても鳴かなん 194㊤

生ふと知らなむ 203㊤



## なり〈助動〉

## ならく未)

女の通ふ所ならば 75㊦

あまならで 84㊦

いづくならむとて 219㊦

かかりとならば 234㊦

## なり〈用〉

かいねりなりける 127㊦

起き給へりけるほどなりけり 174㊦

みやまなりけり 274㊦

に〈用〉 参照一に、にて

## なり〈止〉

そむかまほしき世なりとも 78㊦

墨染なり 127㊦

われからとてもうきめかるなり 170㊦

せきやりがたき御けしきなり 256㊦

山菅のやうなりとも 314㊦

## なる〈体〉

しかぞ又おぼしめすなる 37㊦

するがなる田子の浦波 59㊦

尼にならむとのたまふなる 76㊦

枕上なるを見たまひても 95㊦

涙も出づるなるらむ 97㊦

精進し給ふなるは 114㊦

いでじとのたまふなるこそ 147㊦

やまとなる耳無山の山彦は 158㊦

尼にならむとさへのたまふなる 161㊦

舟ながすほどひさしといふなるを 166㊦

罪深き山いづくなるらん 220㊦

山なる親を恋ひてなく 242㊦

山は夏も寒かなるを 291㊦

## な〈体〉

我をいとひ給ふなめり 10㊦

## なれ〈已〉

身をうしほやくあまなれば 109㊦

しほうらこえぬ山なれど 114㊦

身にも合はぬものどもなれど 128㊦

きぬはき給ふなればにや 131㊦

御すまひなればにこそ 141㊦

ないしかみのぬしといふなれば 162㊦

精進をさへし給ふなれば 163㊦

深く物をおぼすなれば 164㊦

身をしかくさぬものなれば 170㊦

弟子まさりにこそあなれ 218㊦

袖こそ露にぬるなれ 228㊦

夏なれど山は寒しと 293㊦

山は寒しといふなれば 293㊦

よひあかつきにおくなれば 303㊦

## なん→なむ

## に(助,助動「なり」の連用形)

参照一かたみに・げに・さらに・つね

に・にて・まことに・もるとともに

1. 体言につづくもの
2. 連体形につづくもの
3. 「やう」につづくもの
4. その他につづくもの

## 1. 体言につづくもの

むつまじきものにかたらひきこえ給ひて

4㊦

かかる御心ありけるうちに 5㊦

心ほそくおぼえ給ふまに 6㊦

この事のみ御心にいそがれ給ひつつ 6㊦

出で給ふたびごとには 7㊦

女君に 7㊦

法師になりに山へまかるぞ 7㊦

法師になりに山へまかるぞ 7㊦

たはぶれにおぼしてなむ 8㊦

法師にならむと侍るは 10㊦

思はぬ山に君し入らば 11㊦

- 山の端になほかかりたれ 13㊦  
 愛宮の御許にまで給ひて 14㊦  
 比叡にのぼり給ひて 16㊦  
 室におはして 16㊦  
 のたまふまに泣き給ふ 18㊦  
 殿ばらにきこえ給ひければ 22㊦  
 山にみな登り給ふとて 25㊦  
 夜なかにぞおはしける 25㊦  
 驚きとぶらひきこえ給ふなかに 25㊦  
 月ごろになりぬ 27㊦  
 尼になりなむと 27㊦  
 御許になむ常に悲しきことをも 27㊦  
 尼にも 29㊦  
 ここにもとなむ思ひ給ふる 29㊦  
 ひとたびになり給へ 29㊦  
 御許にきこえ給ひければ 29㊦  
 尼には 30㊦  
 山には入らざらむこそ 30㊦  
 いづくにもかくあさましき 32㊦  
 誰に問はまし 32㊦  
 愛宮にきこえ給ひければ 33㊦  
 尼にと思ひたまふれども 34㊦  
 宮にも 36㊦  
 御ともにもと 37㊦  
 誰に問はましとか 38㊦  
 人にこそ問ひきこえぬ 38㊦  
 水のうへにうきよかはとも 40㊦  
 なにはおふやと 44㊦  
 そのすぢにはあらねば 45㊦  
 君が心に 49㊦  
 をりふしごとに泣き給ふを 50㊦  
 人ごとにあはれがる 50㊦  
 わが身にも世をうぐひすと 52㊦  
 君がみやまにえこそ通はね 52㊦  
 鳥にわが身をなしてしが 54㊦  
 そこにもいかにと 57㊦  
 夢にも山の君の 57㊦  
 卯の花につけて 62㊦  
 さける垣根にほととぎす 65㊦  
 ももぞのどのに聞え給ふ 66㊦  
 もろごゑにこそなまほしけれ 68㊦  
 つきせぬことには 69㊦  
 愛宮の御許に 72㊦  
 こなたにもなとか渡り給はぬ 73㊦  
 おほむもとは 74㊦  
 いかんそこにも 75㊦  
 心にかなほぬせりは 75㊦  
 尼にならむと 76㊦  
 あまになるなよ 78㊦  
 そなたにも参らまほしきを 80㊦  
 ながめに袖のひちつつ 80㊦  
 世の中にかへらじと 82㊦  
 尼には 82㊦  
 世の中にかそ思ひかへりこめ 82㊦  
 それにもしほはたるれども 84㊦  
 よにはしりて 85㊦  
 山路にまどふ心も 85㊦  
 御許に右衛門佐おはして 88㊦  
 麓にいでてながれなむ 90㊦  
 うき世の中にながれいでにし 92㊦  
 御袖に涙のかかり 93㊦  
 堀江に深く物思へば 97㊦  
 北の方に聞え給ひければ 98㊦  
 かはしきのしたに入れ給ふ 100㊦  
 山に持て参りたる 102㊦  
 持て参りたる御文に 102㊦  
 御返りに 102㊦  
 尼になりなむ 106㊦  
 同じ山にはえしもあらじ 107㊦  
 そでのうらに身をうしほやく 109㊦  
 かひにおきたるめを 111㊦  
 われゆゑに君がながめを 113㊦

鶯のあふすちには 115㊦  
 いはなみにここのながめに 118㊦  
 ここのながめに袖のぬれぬる 118㊦  
 君が着しきぬにしあらねば 124㊦  
 おぼつかなさに泣きてたちつる 124㊦  
 苔の衣にくらべ見よ 126㊦  
 身には添ひたれ 128㊦  
 身にも合はぬものどもなれど 128㊦  
 着物にもあらねばや 129㊦  
 あした夕べにおく山の 133㊦  
 さらに京に出でじ 135㊦  
 愛宮の御許に 137㊦  
 絵にかきたるさへ 140㊦  
 面影には見え給ふ 140㊦  
 そこにはいかがとなむ 141㊦  
 ここにもひとりのみながむる宿の 142㊦  
 つまごとにしのおの草ぞ 143㊦  
 ながめに明かし暮らすほどに 144㊦  
 明かし暮らすほどに怠り侍りにける 144㊦  
 親たちにおくれたてまつりたるに 145㊦  
 よもぎのしげき宿に立寄り 146㊦  
 月日のふるままにはいとあはれに侍る  
 146㊦  
 忍草はここにもや 148㊦  
 しのぶの上におきそふる 149㊦  
 露のほどにぞ 149㊦  
 さてこの姫君に 151㊦  
 山に入り給ふべく 151㊦  
 人に物思はせ給へりし 152㊦  
 報いにおぼしめせよ 153㊦  
 山に住み給ふよりも 153㊦  
 京の殿より御文に 160㊦  
 ここには心細きを 160㊦  
 ここには 160㊦  
 そこにおぼすらむを 161㊦  
 尼にならむとさへ 161㊦

世の中にさぞおぼすらむ 161㊦  
 ここにぞうき世をばそむきはてなむと  
 162㊦  
 いさや世の中に 162㊦  
 ここにはまして水風のいもひをせましと  
 164㊦  
 中納言殿につたへ給へりけり 172㊦  
 ついでに大姫君の御方に 172㊦  
 御方につたへ給へりけり 172㊦  
 たそかれどきにおぼつかなくなむ 177㊦  
 ここには 177㊦  
 それにもあはれになん 177㊦  
 つれづれのながめに 177㊦  
 人たまへるついでに 180㊦  
 昔きくやどのありしえに 181㊦  
 そま山水におとさざらなん 182㊦  
 御言葉にさしあやまちて 183㊦  
 山に聞え給ふ 187㊦  
 ふたばみつばに 189㊦  
 かぜにあてじと 189㊦  
 はなのさかりに 190㊦  
 もののかずにも 191㊦  
 きみをのみ世に 192㊦  
 やどにしげくぞ 192㊦  
 おいの世に 193㊦  
 おとにだに 195㊦  
 世にすみのえの 195㊦  
 みつのはに 195㊦  
 露にもあてじと 198㊦  
 目に見えぬ 198㊦  
 はなのかぜにや 199㊦  
 ぬる夜のゆめに 199㊦  
 目のうつつまに 200㊦  
 おもかげに 200㊦  
 はるけきやまに 201㊦  
 よとともに 203㊦

- わがみやまにも 203㊦  
 五月ついたちに 206㊦  
 いとど涙に水まさりぬる 207㊦  
 よかはに住めば 213㊦  
 思はぬ山山にありくこと 217㊦  
 今に思ひ侍れど 217㊦  
 御弟子にもやなりなまし 218㊦  
 弟子まさりにこそあなれ 218㊦  
 山にこそ入り侍らめ 219㊦  
 深き山辺に君いらば 222㊦  
 思はぬ山に心いるめり 224㊦  
 禅師の君に聞え給ふ 225㊦  
 山路に露やしげるらむ 226㊦  
 君は袖こそ露にぬるなれ 228㊦  
 山水にこそ袖ひつれ 230㊦  
 この入道の君御夢に 231㊦  
 この横川におはしまして 231㊦  
 それに助かることどもあり 233㊦  
 よにおち給ふな 234㊦  
 横川には君が影みば 237㊦  
 聞え給ふほどに 238㊦  
 御弟の君に語らひきこえ給ひて 238㊦  
 ててきにはあらず 240㊦  
 君は山にぞおはする 241㊦  
 ひえにすむ親こひてなく 244㊦  
 沢水に立つ影だにも 246㊦  
 ははきのもとにおはせぬ 248㊦  
 浦になく雛鶴みるぞ 250㊦  
 わらはなきにぞわれも泣かるる 252㊦  
 かたにても親ににたらば 254㊦  
 恋ひなきになくを見るにぞ 254㊦  
 入道の少将ぎみの御かはりに 255㊦  
 少将になり給ひて 255㊦  
 よろこびに 255㊦  
 中納言殿に参り給へるを 255㊦  
 水にも袖をぬらしつるかな 257㊦  
 しりにたちてありかむと 261㊦  
 よろこびにありかむことの 261㊦  
 名にたてる 265㊦  
 みかさの山に入り来ても 265㊦  
 涙の雨になほぬるるかな 265㊦  
 露にぬるるぞ 267㊦  
 山にたてまつり給ふとて 268㊦  
 わがために君が折りける 271㊦  
 露に袖ぬる 271㊦  
 念仏堂には 272㊦  
 瓶に花たててなむ 272㊦  
 入道の君に語り給ふ 273㊦  
 うらに住むものといふとも 274㊦  
 君ともにかめさへのぼる 274㊦  
 名にはたてれど 276㊦  
 君によはひをゆづりてぞ 278㊦  
 横川に亀もたちのぼりける 278㊦  
 君にまかせん 280㊦  
 桃園の北の方の御許に 281㊦  
 山にだにおはしませば 282㊦  
 ここにこそ人かずに侍らねど 282㊦  
 人かずに侍らねど 283㊦  
 山に年へむとおもへども 285㊦  
 たとふべきことにはあらねど 286㊦  
 姫君にかくなむと 288㊦  
 いとひて山に入りぬれど 289㊦  
 道に忘れ草こそ生ひたらめ 290㊦  
 うれしきたびに袖ぞぬれぬる 295㊦  
 袖を青色に染めて 296㊦  
 都の野辺の苔のきぬには 298㊦  
 いとど涙にぬれまさるかな 300㊦  
 よひあかつきにおくなれば 303㊦  
 よるの寒さにふすまかさねむ 303㊦  
 中宮におはしますをみな人 306㊦  
 なみたちぬひに袖ぞぬれぬる 309㊦  
 わがためになみのぬひける 311㊦

世の中になみだもかかる 313㊦  
 みにもしみぬるからごろもかな 316㊦  
 わが北の方には 317㊦  
 かたみにとこそ見たてまつれ 317㊦

## 2. 連体形につづくもの

かしづき給ひしにかかりておはせしに 3㊦  
 かしづき給ひしにかかりておはせしに 3㊦  
 物もおぼえ給はずあさましきにいささかな  
 る物もまゐらで泣き給ひける 24㊦  
 麓までだにと思ふ給ふるにそれもかたくや  
 30㊦

かくきこゆるに 31㊦  
 妹をみずはといふこともなきにこそは  
 38㊦  
 つれづれなるにこれよりこそ聞えまほしけ  
 れど 79㊦

常にさわがしうおはしますらむにとぶらは  
 せ給ふを喜びてぞ 80㊦

物おぼえぬになむ 81㊦  
 かしら剃り給へらむ姿の見たまへまほしき  
 に見え給はぬがうき世の中にかへらじ  
 とにやあらむと 81㊦

ことに聞ゆるに男君常におはしてあはれが  
 り給ふ 104㊦

時時たてまつりおくるにかひにおきたるめ  
 をはじめていれたり 111㊦

親たちにおくれたてまつりたるにましてか  
 かる物思ひ添ひて侍ればおぼしやれ  
 145㊦

月のほのかなるに立寄り給へり 180㊦  
 おのれだになくはいかがせんと思ふにすこ  
 し露のいのちをもとめるつる 187㊦  
 まちかかりしにおとらずであはれあはれと  
 202㊦

わりご具しておはしたりけるに雨の降りた  
 りければ 206㊦

なにをうしとてかくはなり給ひしにか  
 232㊦  
 ててきかとのたまふにあらざとのたまへば  
 239㊦

沢水に立つ影だにも見えよかしこころ子鶴  
 のなきて恋ふるに 246㊦

かたにても親ににたらば恋ひなきになくを  
 見るにぞわれも悲しき 254㊦

幼き君たちを見たてまつり給ふに悲しくお  
 ぼすらむ 282㊦

人のものし給ふに思ひしりてもあらねど  
 301㊦

御湯殿するかるらむにとて 312㊦  
 あはれあはれと見たまふるに 315㊦

たもとよりぬれけむそでもまだひぬにみに  
 もしみぬるからごろもかな 316㊦

## 3. 「やう」につづくもの

同じやうにしり給はざらむをなむ 34㊦  
 さかさうのやうに人もこそ聞け 184㊦

## 4. その他につづくもの

四月ばかりに卯の花につけて 62㊦  
 かへらじとにやあらむと 82㊦

四月つごもりばかりに 112㊦  
 きぬはき給ふなればにや 131㊦

御すまひなればにこそ 141㊦  
 花のさかりになるまでに 190㊦

にて(助、助動「なり」の連用形に  
 助詞「て」のついたもの)

それも里住みにてことなることもなくて  
 6㊦

内にてきこしめし驚きてけり 23㊦

山にてもといふこともあらばとなむきこえ  
 まほしきを 35㊦

やまにてもいかにつきせずおぼすらむ  
 66㊦

御文にてもありけり 105㊤  
 尼にても同じ山にはえしもあらじ 107㊤  
 御心ざしあるものどもにてなむ賜はりぬる  
 129㊤  
 尼にてもうき世をば離れずや 164㊤  
 えりくぐつにてもさぶらはむ 179㊤  
 殿にて人たまへるついでに 180㊤  
 おとどの君出家し給へりし御姿にて 231  
 ㊤  
 かたにても親ににたらば 254㊤

## ぬ&lt;助動&gt;

## な&lt;未&gt;

尼になりなむと 27㊤  
 心だに似ばあはれなりなむ 47㊤  
 麓にいでてながれなむ 90㊤  
 尼になりなむ 106㊤  
 忘れ給ひなむ 130㊤  
 つきせぬ物思ひはいつはてなん 145㊤  
 思ひ消えなで生きてとなむ 150㊤  
 ここにぞうき世をばそむきはてなむと  
 162㊤  
 かうぶりとられなんと人のものすれば  
 163㊤  
 もえいでなまし 196㊤  
 あめのうちよりはなれなば 213㊤  
 御弟子にもやなりなまし 218㊤  
 都こひしくならばいでなむ 285㊤

## に&lt;用&gt;

切り給ひにければ 19㊤  
 うき世の中にながれいでにし 92㊤  
 怠り侍りにける 144㊤  
 きみが入りにし 194㊤  
 あとふりにけり 211㊤  
 失せ給ひにしかば 217㊤  
 死出の山入りにしおきなども 286㊤

## ぬ&lt;止&gt;

露と消ぬべし 11㊤  
 月ごろになりぬ 27㊤  
 山へ入りぬべきをりあれど 76㊤  
 あたらしくそでぬれぬ 130㊤  
 うけたまはりぬ 144㊤  
 見給ひぬべきことは 152㊤  
 うけたまはりぬ 168㊤  
 出で給ひぬ 179㊤  
 いまぞけぬべき 190㊤  
 絶えぬばかりぞ 191㊤  
 なぐさみぬ 201㊤  
 やがてさめ給ひぬ 238㊤

## ぬる&lt;体&gt;

きこえあへずなりぬる 21㊤  
 涙の流れ出でぬる 95㊤  
 袖のぬれぬる 118㊤  
 御心ざしあるものどもにてなむ賜はりぬる  
 129㊤  
 いとど涙に水まさりぬる 207㊤  
 袖のぬれぬる 226㊤  
 身さへぞわれはそぼちぬる 228㊤  
 いとどしく袖ぞひちぬる 237㊤  
 袖ぞぬれぬる 295㊤  
 袖ぞぬれぬる 309㊤  
 みにもしみぬるからごろもかな 316㊤

## ぬれ&lt;已&gt;

わびぬれば 132㊤  
 ここにこそ…ちちなしごをもてわづらひぬ  
 れ 283㊤  
 いとひて山に入りぬれど 289㊤

## の&lt;助&gt;

参照一あけのころも・あしがきの・あ  
 しひきの・あぜちのだいなごんどの・  
 あぜちのだいなごんどののきたのか

た・あふみのきたのかた・うのはな・  
 うへのおほんぞ・おとどのきみ・おほ  
 んいもうとのきみ・おほんおとのき  
 み・おほんはらからのきみたち・かが  
 みのやま・きたのかた・きやうのと  
 の・くるみのいろ・こしきぶきやうの  
 きたのかた・このかみ・このごろ・こ  
 のつき・しきぶきやうのきたのかた・  
 しでのやま・すけのきみ・すみのえ・  
 せうしやうのきみ・せじのきみ・ぜん  
 じのきみ・だいなごんどのきたのか  
 た・たかみつのせうしやうのきみ・た  
 ごのうら・たまのを・ちゆうじやうの  
 きみ・ちゆうなごんどのきたのか  
 た・ちゆうなごんのきみ・つのかに・  
 てんじやうのきみ・とみのこうち・と  
 みのこうちのきみたち・なかのきみせ  
 うしやう・にふだうのきみ・にふだう  
 のせうしやうきみ・ひめのきみ・ひや  
 うゑのすけ・ひやうゑのすけのきみ・  
 みかさのきみ・みかさのやま・みやの  
 ごんのすけ・もののおはれ・ももぞの  
 のおほひめぎみ・ももぞのきたのか  
 た・ももぞのごんちゆうなごんどの  
 のちゆうじやうのきみ・ももぞのち  
 ゆうなごんのきみ・ももぞのひめぎ  
 み・やまのきみ・やまのゐ・よのな  
 か・ゑもんのすけ

1. 準体助詞
2. 体言に「の」が接し、それに体言のつづくもの
3. 体言に「の」が接し、それに「ごとし」のつづくもの
4. 体言に「の」が接し、それに用言などのつづくもの
5. 副詞に「の」が接し、それに体言のつづくもの

### 1. 準体助詞

ゆかたびらただのといかにせさせ給へらむ  
 314㊦

### 2. 体言に「の」が接し、それに体言の つづくもの

腹腹の君たち 2㊦  
 この斎宮 2㊦  
 斎宮の御腹 3㊦  
 御腹の女君 3㊦  
 この御兄人たち 3㊦  
 よろづのこと 6㊦  
 この事 6㊦  
 例のこと 7㊦  
 このたび 8㊦  
 麓の草 11㊦  
 草の露 11㊦  
 山の端 13㊦  
 愛宮の御許 14㊦  
 京の殿ばら 22㊦  
 愛宮の御許 27㊦  
 女君の御許 29㊦  
 横川の麓 30㊦  
 この世 35㊦  
 水のうへ 40㊦  
 この二所 41㊦  
 かの桃園の樞中納言殿の中將の君 42㊦  
 そのすぢ 45㊦  
 その北の方 45㊦  
 その御返し 48㊦  
 北の方の御返し 53㊦  
 愛宮の御許 55㊦  
 するがの富士 56㊦  
 富士のけぶり 56㊦  
 この愛宮 61㊦  
 愛宮の御許 72㊦  
 愛宮の御返し 79㊦  
 明け暮れのながめ 80㊦  
 弟の禪師の君 86㊦  
 人の家路 87㊦

- 愛宮の御許 88地  
 山の井の麓 90歌  
 人の影 90歌  
 佐の君の御返し 91地  
 うき世の中に (92歌)  
 かの桃園の姫君 93地  
 少将の君の御袖 93地  
 かの御身 95会  
 津の国の堀江 97歌  
 かはしきのした 100地  
 かの姫君 104地  
 姫君の御なげき 104地  
 そでのうら 109\*歌  
 この姫君 110地  
 鶯の巢 112地  
 鶯のあふすち 115地  
 うぐひすの巢 116歌  
 巢のうち 116歌  
 ここのながめ 118歌  
 鶯の巢 120歌  
 巢のうち 120歌  
 この君 121地  
 君の御装束 121地  
 この御衣ども 123会  
 墨染のおぼつかなさ 124歌  
 奥山の苔の衣 126歌  
 苔の衣 126歌  
 上の御衣 127地  
 袷の御袴 127地  
 山の御返り 127地  
 苔の衣 128会  
 昔の着物 129会  
 もとの色 130会  
 墨染のきぬ 131会  
 墨染の衣 132歌  
 衣のすそ 132歌  
 おく山の苔の衣 133歌  
 苔の衣 133歌  
 この姫君 135地  
 愛宮の御許 137地  
 しるのわかき 139歌  
 今日の御かたち 140会  
 つれづれの御すまひ 141会  
 宿のつまごと 143歌  
 しのぶの草 143\*歌  
 しのぶの上 149歌  
 露のほど 149歌  
 この姫君 151地  
 この君 151会  
 耳無山の山彦 158歌  
 水風のいもひ 164会  
 大姫君の御方 172地  
 つれづれのながめ 177会  
 あの人 178会  
 人の影 178会  
 宮のこのかみ 180地  
 のちの御言葉 183会  
 歌の返し 184地  
 さかさうのやうに人もこそ聞け 184地  
 をとこのきむだち 184地  
 この姫君 186地  
 露のいのち 187会  
 はなのさかり 190歌  
 つゆのいのち 190歌  
 もののかず 191歌  
 おいの世 192会  
 なきとこのまくらがみをぞ 193歌  
 やまがはのみづのながれて 194歌  
 すみのえのみつのはに 195歌  
 たきもののひとりひとりも 196歌  
 山の御返し 197地  
 はなのかぜ 199歌



- 夜のゆめ 199歌  
 目のうつつま 200歌  
 しらかはのふちも知らずは 204歌  
 よかはの水 209歌  
 涙の雨 209歌  
 あめのうち 213歌  
 山川の水 222歌  
 人の袖 226歌  
 こけのきぬ 228歌  
 この入道の君 231地  
 この横川 231地  
 横川の水 235歌  
 かの入道の君 239地  
 入道の君の御子 239地  
 つるの子 242歌  
 ははきのもと 248会  
 入道の少将君の御かはり 255地  
 この中納言殿 255地  
 山の君のかはり 256会  
 山の井の水 257歌  
 このいかを少将 260地  
 近衛づかさの人 263地  
 なにのうれしげ 263地  
 涙の雨 265歌  
 いにしへの君 267歌  
 かざしの露 267歌  
 白銀の花瓶 268地  
 その頃 268地  
 その頃の花 268地  
 山の端 269歌  
 都の花 269歌  
 山の端 271歌  
 山の端の露 271歌  
 この花 272地  
 この瓶 272地  
 亀の命 280歌  
 北の方の御許 281地  
 北の方の御文 281地  
 かの山 283会  
 山の御すまひ 283会  
 この禪師の君 291地  
 禪師の君の御はらからの君たち 291地  
 くるみの色 291地  
 くるみの色の御直垂 291地  
 くちなし染のうちき 292地  
 ふるきの皮 292地  
 皮のおほんぞ 292地  
 青鈍の指貫 292地  
 袷の袴 292地  
 このかはぎぬ 293歌  
 山吹色のうちき 296地  
 青鈍の綾 296地  
 綾の指貫 296地  
 袷の袴 297地  
 都の野辺 298歌  
 野辺の苔のきぬ 298歌  
 苔のきぬ 298歌  
 苔のきぬ 300歌  
 よるの寒さ 303歌  
 この中宮 306地  
 青純のうちき 307地  
 同じ色の袴 307地  
 きぬの御かたびら 312地  
 山菅のやうなりとも 314会  
 3. 体言に「の」が接し、それに「ごとし」のつづくもの  
 露のごとよひあかつきにおくれば 303歌  
 4. 体言に「の」が接し、それに用言など  
 のつづくもの  
 おとどのかしづき給ひしにかかりて 3地  
 世の中のおはれなることを 4地  
 例のよきりはかへり給へ 8会

御弟のおはしける室におはして 16㊤  
 愛宮の女房の御許にきこえ給ひければ  
     29㊤  
 あはれなる人の住み給ふらむ 36㊤  
 あふことのかたち 47㊤  
 山の君の見え給ふをりは 57㊤  
 愛宮の泣き悲しび給ふを 61㊤  
 うの花のさける垣根に 65㊤  
 女の通ふ所ならば 74㊤  
 袖のひちつつ 80㊤  
 姿の見たまへまほしきに 81㊤  
 君がすむ山川水のあさましく 92㊤  
 涙のかかりぬれたりければ 93㊤  
 草葉の袖は露のかかれる 94㊤  
 露のかかれる 94㊤  
 御佩刀の枕なるを見たまひても 95㊤  
 涙の流れ出でぬる 95㊤  
 少将の常に見給ひし御鏡を 100㊤  
 ももそののことに聞ゆるに 104㊤  
 山の君の行ひ給ふらむ 110㊤  
 君なき床のいはなみに 118㊤  
 袖のぬれぬる 118㊤  
 御衣どものいとあはれなれば 123㊤  
 露のおきはまさと 126㊤  
 ことひとのころもがへやしたまふらむ  
     130㊤  
 くものよそよそ 132㊤  
 大姫君のたてまつり給ひける 137㊤  
 物思ひのやむよもなくて 138㊤  
 物思ひの添ひて侍れば 145㊤  
 よもぎのしげき宿に立寄り給ひて 146㊤  
 御姿の見えねば 146㊤  
 月日のふるままには 146㊤  
 山彦のあひ答へずは 155㊤  
 人のものすればなむ 163㊤  
 宮のこのかみの殿にて人たまへるついでに

180㊤  
 月のほのかなるに 180㊤  
 やどのありし 181㊤  
 きむだちのおはしければ 186㊤  
 なでしこのふたばみつばにおひたるを  
     189㊤  
 しのぶることのうちはへて 193㊤  
 みづのながれて 195㊤  
 むすべることのなかりせば 195㊤  
 なでしこの露にもあてじとおもひしにあな  
     おぼつかな 198㊤  
 雨の降りたりければ 206㊤  
 涙の雨のやむよなければ 209㊤  
 六郎ぎみの聞え給ふ 215㊤  
 おとどの君のかくしたまはで 216㊤  
 君の思はずにておはすれば 217㊤  
 袖のぬれぬる 226㊤  
 ててきの久しく見えざらむ 240㊤  
 子鶴のなきて恋ふるに 246㊤  
 あふことのかたみも知らず 250㊤  
 あふことのかたみとてだに 252㊤  
 兄君のなりいで給はむしりにたちて 261㊤  
 よろこびにありかむことの悲しきこと  
     262㊤  
 人の聞えける 266㊤  
 御すまひのあはれなるを 283㊤  
 おきなどもの年をふれど逢ふことなく侍れ  
     ば 286㊤  
 姫君の御かへり聞え給ふ 288㊤  
 かはぎぬのうれしきたびに 295㊤  
 北の方のたてまつれ給ふ 296㊤  
 人のものし給ふに 301㊤  
 なみのぬひけるころも川 311㊤  
 ぬのの清らなると 312㊤  
 あふことのかたみにとこそ 317㊤  
 愛宮のたてまつれ給へるを 318㊤

5. 副詞に「の」が接し、それに体言の  
つづくもの

あまたのことを 192㊦

のみ〈助〉

ただこの事のみ御心にいそがれ給ひつつ  
6㊦

君のみか我もさこそは 63㊦

苔の衣などのみこそ身には添ひ 128㊦

昔のみ面影には見え給ふ 140㊦

ひとりのみながむる宿の 143㊦

こちのみつねにみだるる 191㊦

きみをのみ世に 192㊦

きみがたにのみうきよかは 204㊦

は〈助〉 参照一かは・やは

1. 体言につづくもの
2. 連用形(除、「なり」の連用形「に」)につづくもの
3. 連体形につづくもの
4. 副詞につづくもの
5. 助詞(含、「なり」の連用形「に」)につづくもの

1. 体言につづくもの

父おとどおはしけるほどは制しきこえ給ひ  
ければ 1㊦

君たちはみな心とおはしませば 2㊦

女君はまだともかくもなくて 3㊦

まことにこのたびは 8㊦

例のよさはかへり給へらむを 8㊦

女君は尼になりなむと泣き給ひけり 27㊦

かたちはことにあればかひなし 44㊦

かたちはことになれりとも 47㊦

山の見え給ふをりはさめてくやしくなむ

57㊦

物思ひはわれもさこそはするがなる 59㊦

故式部卿の北の方はときどきとぶらひきこ

え給ひける 62㊦

我はまさりて 65㊦

このごろはいかが 72㊦

世はそむき給はめ 74㊦

心にかなはぬをりは山へ入りぬべきをりあ  
れど 75㊦

それにもしほはたるれども 84㊦

わればかりうき身はなし 88㊦

男はおはし通ひたぶ 89㊦

草葉の袖は露のかかれる 94㊦

君はなほ身をすみがまか 99㊦

法師は鏡は見ぬか 100㊦

法師は鏡は見ぬか 100㊦

鏡の山はいかががあると 101㊦

かたちはことにぞありける 103㊦

君はゆかしくおもほえば 116㊦

君なき床のいはなみに 118\*㊦

君がすみかはこれかと思へば 120㊦

山伏は苔の衣などのみこそ 128㊦

これは身にも合はぬものどもなれど 128㊦

きぬはき給ふなればにや 131㊦

露霜はあした夕べにおく山の 133㊦

苔の衣は風もとまらず 133㊦

今日の御かたちは知らず 140㊦

物思ひはいつはてなん 145㊦

忍草はここにもや 148㊦

我が身ひとつは露のほどにぞ 149㊦

見給ひぬべきことはあらせたてまつり給ひ  
し 152㊦

山住みはせんと 152㊦

山彦は呼べどもさらにあひも答へず 158㊦

このごろはいかにおぼすらむ 160㊦

つねは世の中にさぞおぼすらむ 161㊦

たそかれどきはまどはれぞする 173㊦

姿はたそかれどきにおぼつかなくなむ  
176㊦

山人はしのびてをり給ふや 181㊦

山彦はそま山水におとさざらん 182㊦  
 はじめは嬉しかりつれども 183㊦  
 歌の返しは聞え給はず 184㊦  
 きむだちはしばしこそあはれがり給ひしか  
 185㊦  
 こひしきをりはおもかげに見えてもこころ  
 200㊦  
 われはそばちぬる 228㊦  
 君は袖こそ露にぬるなれ 228㊦  
 露はものかは 230㊦  
 尊とさはいと尊とけれど 232㊦  
 わがなきたまは常に見せてむ 235㊦  
 入道君の御子は…ててきかとのたまふに  
 239㊦  
 君は山にぞおはする 241㊦  
 中の君少将は山の君のかはりか 256㊦  
 みかさ山雨はもらじを 267㊦  
 山の端はかくしもあらじ 269㊦  
 都の花は折れば袖ひつ 269㊦  
 亀の命は君にまかせん 280㊦  
 それは世の中をなにとは思はむ 283㊦  
 山は夏も寒かなるを 291㊦  
 山は寒しといふなれば 293㊦  
 このかはぎぬぞ風はふせがむ 293㊦  
 山伏はころもさだめず 305㊦  
 御衣はたてまつれまほしけれ 314㊦

2. 連用形(除、「なり」の連用形「に」)  
 につづくもの

妹をみずはといふことも 38㊦  
 露のおきはまさると 126㊦  
 まめやかに…いかにねふたからずおぼす  
 らむと思ひたてまつりて 153㊦  
 山彦のあひ答へずはあらじとぞ思ふ 155㊦  
 おのれだになくはいかがせん 187㊦  
 しらかはのふちも知らずは 204㊦  
 にごらずはわがなきたまは常に見せてむ

235㊦

## 3. 連体形につづくもの

法師にならむと侍るは我をいとひ給ふなめ  
 り 10㊦  
 精進物まゐらせたるは時時たてまつりおく  
 るに 111㊦  
 まことや精進し給ふなるは 114㊦  
 すくなき見るはあはれなる 259㊦  
 里へ出で給ふとあるはまことか 284㊦

4. 副詞につづくもの

などかくはのたまふ 17㊦  
 いかがはせむとて 20㊦  
 かくはなり給ひしにか 232㊦  
 さはあれどいとくちをしくなむある 233㊦  
 いかがはせむとぞ 262㊦

5. 助詞(含、「なり」の連用形「に」)に  
 つづくもの

見たてまつらではえおはしますまじけれど  
 5㊦  
 出で給ふたびごとには…ときこえ給ひけれ  
 ば 7㊦  
 かへり給へらむをこそは法師かへるとは見  
 め 9㊦  
 法師かへるとは見め 9㊦  
 尼には誰もなるとも 30㊦  
 山には入らざらむこそ 30㊦  
 かくあさましきうきよかはあなおぼつかな  
 32\*㊦  
 同じうきよかはと思う給ふべき 34\*㊦  
 妹をみずはといふこともなきにこそは  
 38㊦  
 うきよかはとも誰か問ふべき 40\*㊦  
 なにはおふやと 44㊦  
 そのすちにはあらねば 45㊦  
 われもさこそはするがなる 59㊦  
 我もさこそは世の中をあなうの花と 63㊦

つきせぬことには 69㊦  
 山よりはとぶらひきこえ給ふや 73㊦  
 さもこそは世はそむき給はめ 74㊦  
 おほむもとはかたらひきこえ給へかし  
 74㊦  
 尼にはさもやと思うたまふれども 82㊦  
 同じ山にはえしもあらじ 107㊦  
 あふすちにはかくぞせんとあり 115㊦  
 忘れては誰がことぞとおぼめかれつる  
 123㊦  
 身には添ひたれ 128㊦  
 昔のみ面影には見え給ふ 140㊦  
 そこにはいかがとなむきこえ侍る 141㊦  
 月日のふるままにはいとあはれに侍る  
 147㊦  
 ここには心細きを 160㊦  
 ここには…を思ひたてまつりて 160㊦  
 うき世をばそむきはてなむと 162㊦  
 かしらおろしてはかうぶりとられなんと  
 162㊦  
 うき世をば離れずや 164㊦  
 ここにはまして水風のいもひをせましとな  
 む 164㊦  
 ここにはそれにもあはれになん 177㊦  
 われなくてはいかかせむとおぼして 186㊦  
 みやこをばおもひわするる 201㊦  
 ながれては見む 204㊦  
 きみがたにのみうきよかは 204\*㊦  
 かかりてふよかはともへど 207\*㊦  
 横川には君が影みば水もにごらじ 237㊦  
 人を見給ひてはててきかとのたまふに  
 239㊦  
 ててきにはあらず 240㊦  
 念仏堂にはこの瓶に花たててなむ行ひける  
 272㊦  
 横川てふ名にはたてれど 276㊦

今よりは亀山とこそいふべかりけれ 276㊦  
 なにとは思はむ 283㊦  
 たとふべきにはあらねど 286㊦  
 都をばいとひて山に入りぬれど 289㊦  
 都の野辺の苔のきぬには 298㊦  
 北の方には…となむきこえ給へりける  
 317㊦

ば(助) 参照一さらば・ともすれば

1. 未然形につづくもの
2. 已然形につづくもの

1. 未然形につづくもの

あはれとも思はぬ山に君し入らば 11㊦  
 いふこともあらばとなむ 35㊦  
 心だに似ばあはれなりなむ 47㊦  
 ゆめもあらば 67㊦  
 女の通ふ所ならば 75㊦  
 君はゆかしくおもほえば 116㊦  
 ぬぎ給はばもとの色わすれ給ひなむ 130㊦  
 ととき見え給はば 147㊦  
 こゑ高くあはれといはば 155㊦  
 見給はむとあらば 179㊦  
 なかりせば 196㊦  
 あめのうちよりはなれなば 213㊦  
 弟子まさりとおぼさば 219㊦  
 君いらばあさましからむ 222㊦  
 かかりとならばよにおち給ふな 234㊦  
 君が影みば水もにごらじ 237㊦  
 かたにても親ににたらば 254㊦  
 御命だにおはせば 284㊦  
 都こひしくならばいでなむ 285㊦

2. 已然形につづくもの

制しきこえ給ひければ 1㊦  
 みな心とおはしませば 2㊦  
 さもあらねば 3㊦  
 きこえ給ひければ 7㊦

- きこえ給ひければ 8地  
 笑ひ給ひければ 9地  
 出で給ひければ女君 9地  
 きこえ給へば 12地  
 出で給へば 14地  
 のたまひければ 14地  
 涙もいで給ひければ 15地  
 のたまひければ 17地  
 泣きてうけたまはらざりければ 19地  
 剃刀して切り給ひにければ 19地  
 殿ばらにきこえ給ひければ 22地  
 ののしりければ 23地  
 御許にきこえ給ひければ 29地  
 愛宮にきこえ給ひければ女君 33地  
 うからねばこそ登りおはすらめど 35会  
 うからねばこそ 39会  
 聞ゆる人ありければ 42地  
 かたちはことにあればかひなし 44会  
 そのすちにあらねば 45会  
 聞え給ひければ 48地  
 鶯なきければ 51地  
 きこえたてまつらるれば 58地  
 もののあはれを知れりと思へば 71会  
 思うたまふれば 83会  
 語りきこえ給へば 88地  
 のたまへば 91地  
 涙のかかりぬれたりければ 93地  
 あけの衣をけさ見れば 94会  
 きこえ給ひければ 96地  
 堀江に深く物思へば 97会  
 北の方に聞え給ひければ 98地  
 見ればかたちはことにぞありける 103会  
 身をうしほやくあまなれば 109会  
 君がすみかはこれかと思へば 120会  
 山へたてまつりければ 121地  
 いとあはれなれば 123会  
 君が着しきぬにしあらねば 124会  
 昔の着物にもあらねばや 129会  
 きぬはき給ふなればにや 131会  
 わびぬればくものよそよそ 132会  
 やむよもなくてほどふれば 138会  
 太刀はきたるを見れば 140会  
 御すまひなればにこそ 141会  
 物思ひの添ひて侍れば 145会  
 御姿の見えねば 146会  
 ないしかみのぬしといふなれば 162会  
 人のものすればなむ 163会  
 精進をさへし給ふなれば 163会  
 深く物をおぼすなれば 164会  
 身をしかくさぬものなれば 170会  
 うけたまはれば 171会  
 内へ参り侍ればなん 175会  
 いそぎ給へばなん 176会  
 すまひさへかはりたれば 178会  
 影も見えねば 178会  
 聞え給へば 178地  
 聞え給へれば 183地  
 きむだちのおはしければ 186地  
 思へばいとぞ 199会  
 雨の降りたりければ 206地  
 涙の雨のやむよなければ 209会  
 よかはに住めばそでぞぬれます 213会  
 世の中心うければ 216会  
 失せ給ひにしかば 217会  
 君の思はずにておはすれば 218会  
 のたまへば禪師の君 218地  
 聞え給へば 218地  
 あはれにとひきこえ給へば 233会  
 のたまへば 233地  
 あらずとのたまへば 240地  
 泣き給へば 240地  
 つるの子みればわれぞ悲しき 242会

なげき給へば 249㊤  
 みかきの君がかはりと思へば 259㊤  
 都の花は折れば袖ひつ 269㊤  
 君が折りける花みれば 271㊤  
 山にだにおはしませば 282㊤  
 逢ふことなく侍れば 286㊤  
 姫君にかくなむと聞え給へれば 288㊤  
 恋しからねば思ひいでじを 289㊤  
 夏なれど山は寒しといふなれば 293㊤  
 君がためたちぬひたれば 298㊤  
 ひとりおはすれば 301㊤  
 よひあかつきにおくなれば 303㊤  
 われとたてまつらむとのたまひければ  
 306㊤  
 きみがためなくなくぬへば 313㊤

## ばかり〈助〉

三月ばかり鶯のなきければ 51㊤  
 四月ばかりに卯の花につけて 62㊤  
 わればかりうき身はなし 88㊤  
 四月つごもりばかり 112㊤  
 鶯の巢三つばかり 112㊤  
 むめすちばかりいれたり 112㊤  
 絶えぬばかりぞ 191㊤  
 花瓶を四つばかり作りて 268㊤

## へ〈助〉

法師になりて山へまかるぞ 7㊤  
 いそぎ物へまかる 15㊤  
 山へ入りぬべきをりあれど 75㊤  
 これ山へたてまつりければ 121㊤  
 山へたてまつり給ふ 122㊤  
 いそぎ内へ参り侍ればなん 174㊤  
 いづくへもあめのうちよりはなれなば  
 213㊤  
 山へ入らむと思ふたまへしかど 216㊤

都へもさらにかへらじ 220㊤  
 里へ出で給ふまし 284㊤

## べし〈助動〉

## べく〈用〉

君かく恋ふと泣きて告ぐべく 54㊤  
 山に入り給ふべく見給ひぬべきことは  
 152㊤  
 言ひつくすべくもなく 318㊤

## べかり〈用〉

亀山とこそいふべかりけれ 276㊤

## べし〈止〉

麓の草の露と消ぬべし 11㊤  
 ながれてもきみすむべしと 40㊤

## べき〈体〉

同じうきよかはと思う給ふべき 34㊤  
 うきよかはとも誰か問ふべき 40㊤  
 山へ入りぬべきをりあれど 76㊤  
 うきめかづくともたはなるべき 84㊤  
 見給ひぬべきことは 152㊤  
 いまぞけぬべき 190㊤  
 なにかわが身を思ふべき 280㊤  
 たとふべきことにはあらねど 286㊤

## まし〈助動〉

## まし〈止〉

ここにはまして水風のいもひをせましとな  
 む 164㊤

もえいでなまし 196㊤

## まし〈体〉

あなおぼつかな誰に問はまし 32㊤  
 誰に問はまし 38㊤  
 身をや投げてましとおほせど 186㊤  
 御弟子にもやなりなまし 218㊤

## まじく助動

## まじくく用

御影をだに見るまじくとも 36㊦

## まじく止

里へ出で給ふまじとあるはまことか 284㊦

## まじけれく已

えおはしますまじけれど 5㊦

## までく助

横川の麓までだにと思ふ給ふるに 30㊦

はなのさかりになるまでにいかでおほさむ  
と 190㊦わがみやまにもふもとまで生ふと知らなむ  
203㊦

## まほしく助動

## まほしくく用

さて通はまほしくなむ思へど 75㊦

## まほしく用

みづから申さまほしう思う給ふれど 168㊦

## まほしく止

人を見まほしとてない給ふ 159㊦

## ましきく体

行ひ侍らましきを(「行ひ侍らまほしきを」  
ノ誤カ) 36㊦

## まほしきく体

きこえまほしきを 35㊦

そむきても行ひ侍らまほしきを (36㊦)

そむかまほしき世なりとも 78㊦

そなたにも参らまほしきを 80㊦

姿の見たまへまほしきに (81㊦)

聞かまほしきを 195㊦

## まほしけれく已

もろごゑにこそなかまほしけれ 68㊦

これよりこそ聞えまほしけれど 79㊦

これよりこそ山菅のやうなりとも御衣はた  
てまつれまほしけれ 314㊦

## むく助動

## むく止

法師にならむと侍るは 10㊦

ものきこえむとのたまひければ 14㊦

女君は尼になりなむと 27㊦

心だに似ばあはれなりなむ 47㊦

尼にならむとのたまふなる 76㊦

山の井の麓にいでてながれなむ 90㊦

恋しき人の影をだに見む 90㊦

尼になりなむ 106㊦

もとの色わすれ給ひなむ 130㊦

これよりも聞えむと思ふ給ふれど 144㊦

まろこそ昔山住みはせんと思ひしか 152㊦

尼にならむとさへのたまふなる 161㊦

かうぶりとられなんと人のものすれば  
163㊦

さらば静かに参らむ 178㊦

太刀はきたる姿も見給はむとあらば 179㊦

ゑりくぐつにてもさぶらはむ 179㊦

いかでおほさむと 190㊦

おのれこそかしらそらむ山へ入らむと思ふ  
たまへしかど 216㊦

山へ入らむと 216㊦

深き山辺に君いらばあさましからむ 222㊦

あまがけりてもたづねとぶらはむ 234㊦

わがなきたまは常に見せてむ 235㊦

しりにたちてありかむとこそ思ひしか  
261㊦

籠の命は君にまかせん 280㊦

あしひきの山に年へむと思へども 285㊦

都こひしくならばいでなむ 285㊦

よるの寒さにふすまかさねむ 303㊦



かならずわれとたてまつらむと 306㊟  
 われとぐしてたてまつらむとて 307㊟  
 きてだになれむ 311㊟

## むく体)

例のよさはかへり給へらむをこそは 9㊟  
 わが入らむ山の端になほ 13㊟  
 いかがはせむとて 20㊟  
 同じ山には入らざらむこそ 30㊟  
 誰も同じやうにしり給はざらむをなむ  
 34㊟

もとむともかひやなからむ 49㊟  
 かしら剃り給へらむ姿の 81㊟  
 かへらじとにやあらむと 82㊟  
 なほ世の中をうらみてぞへん 107㊟  
 みるめかづかであらむものは 109㊟  
 われ魚食はむこそゆゆしけれ 110㊟  
 かくぞせんとあり 115㊟

つきせぬ物思ひはいつはてなん 145㊟  
 かたちことになり給へらむ御姿を 147㊟  
 ここにぞうき世をばそむきはてなむと

162㊟

あしひきの山よりいでん山彦は 182㊟  
 われなくてはいかがせむと 186㊟  
 おのれだになくはいかがせんと 187㊟  
 つゆのいのちやあへざらむ 190㊟  
 まくらがみをぞおもほしきことかたらはん

194㊟

うれしき世をぞながれては見む 204㊟  
 深からむ山にこそ入り侍らめ 219㊟  
 いづくならむ 219㊟  
 などかててきの久しく見えざらむとて

240㊟

兄君のなりいで給はむしりにたちて 261㊟  
 よろこびにありかむことの 261㊟  
 いかがはせむとぞ 262㊟  
 世の中をなにとは思はむ 283㊟

このかはぎぬぞ風はふせがむ 293㊟  
 われなにわざせんとて 312㊟  
 いかにせさせ給へらむと 315㊟

## めく巳)

かへり給へらむをこそは法師かへるとは見  
 め 9㊟  
 おのれこそそのたまはめ 21㊟  
 人にこそ問ひきこえめ 38㊟  
 さもこそは世はそむき給はめ 74㊟  
 世の中にかこそ思ひかへりこめと 82㊟  
 山にかこそ入り侍らめ 219㊟  
 道に忘れ草こそ生ひたらめ 290㊟

## めりく助動)

## めりく止)

我をいとひ給ふなめり 10㊟  
 思はぬ山に心いるめり 224㊟

もく助) 参照一さても、さも、さも  
 や、しも、ともかくも、ともすれば

1. 体言につづくもの
2. 連用形(除、「なり」の連用形「に」)につづくもの
3. 連体形につづくもの
4. 副詞につづくもの
5. 接頭語につづくもの
6. 助詞(含、「なり」の連用形「に」)につづくもの

## 1. 体言につづくもの

物しきこともなし 2㊟  
 それも里住みにて 6㊟  
 ことなることもなくて 6㊟  
 涙もいで給ひければ 15㊟  
 ことなることもきこえ給はで 15㊟  
 阿闍梨も泣きて 19㊟  
 阿闍梨も 20㊟  
 御はらからの君たちも 21㊟  
 女房も泣きまどひて 23㊟

物もおぼえ給はず 23㊤  
 いささかなる物もまるらで 24㊤  
 物もきこしめさず 26㊤  
 誰もなるとも 30㊤  
 それもかたくや 30㊤  
 誰も同じやうに 34㊤  
 山にてもといふこともあらば (35㊤)  
 このかみもこの世をそむきて 35㊤  
 妹をみずはといふこともなきにこそは 38  
 ㊤  
 かたちもことになり給へり 45㊤  
 われもさこそはするがなる 59㊤  
 誰も誰も御はらからの君たち 61㊤  
 誰も誰も御はらからの君たち 61㊤  
 君のみか我もさこそは 63㊤  
 ゆめもあらば 67㊤  
 よにはしりて山路にまどふ心も 85㊤  
 人の家路も思ほえず 87㊤  
 身より涙もいづるなるらむ 97㊤  
 身をすみがまかこまもたえせぬ 99㊤  
 かたちかはれる影も見よかし 101㊤  
 きみが影もやそひたると 103㊤  
 誰誰も 104㊤  
 しのびきこゆるかひもありけるかな 119㊤  
 苔の衣は風もとまらず 133㊤  
 やむよもなくてほどふれば 138㊤  
 忘ることもしるのわかきか 139㊤  
 心かけきこえたりし人も 151㊤  
 こたみも 159㊤  
 思ひも定めず 171㊤  
 人の影も見えねば 178㊤  
 太刀はきたる姿も見給はむとあらば 179㊤  
 いとどしくさまも見えで 184㊤  
 人もこそ聞け 184㊤  
 たまのをも 191㊤  
 こひてふことも 193㊤

知らぬ身も 193㊤  
 きてねしひともし 193㊤  
 ひとりひとりも 196㊤  
 いまも見てしが 199㊤  
 ふちも知らずは 204㊤  
 水もにごらじ 237㊤  
 あふことのかたみも知らず 250㊤  
 われも泣かるる 252㊤  
 われも悲しき 254㊤  
 このいかを少将も 260㊤  
 つかさもことに嬉しからず 260㊤  
 なにのうれしげもなくぞ 263㊤  
 横川に亀もたちのぼりける 278㊤  
 山は夏も寒かなるを 291㊤  
 山風もふせぎとめつるかはぎぬの 295㊤  
 そはりける露もたえせぬ苔のきぬ 300㊤  
 ころもさだめず今よりぞしく 305\*㊤  
 なみだもかかるところもたちけり 313㊤  
 なみだもかかるところもたちけり 313\*㊤  
 ぬれけむそでもまだひぬに 316㊤

## 2. 連用形(除、「なり」の連用形「に」)につづくもの

あはれにもあらず 45㊤  
 しのびてもいでも(「しのびてもいでも」ノ誤カ) 74㊤  
 久しくもなにかわが身を 280㊤  
 きみが影みえもやすると 309㊤  
 言ひつくすべくもなく 318㊤

## 3. 連体形につづくもの

あはれがりきこえ給ふも物も聞えておはしふる 61㊤

## 4. 副詞につづくもの

思ひないれそつゆも忘れじ 13㊤  
 なぞもかく生ける世をへて 56㊤  
 いともいともうれしく 69㊤  
 いともいともうれしく 69㊤

しばしも聞えぬ 73㊦

わいても 130㊦

えしばしばも聞え侍らず 175㊦

いともきよげなる袖を 296㊦

### 5. 接頭語につづくもの

呼べどもさらにあひも答へず 158㊦

### 6. 助詞(含、「なり」の連用形「に」)につづくもの

あはれとも思はぬ山に 11㊦

御消息をだにもきこえあへずなりぬる

21㊦

御妹の君なども泣きまどひ給ひけり 23㊦

悲しきことをも通はし給ひける 28㊦

尼にもここにもとなむ思ひ給ふる 29㊦

ここにもとなむ思ひ給ふる 29㊦

いづくにもかくあさましきうきよかは

32㊦

山にてもといふことも 35㊦

そむきても行ひ侍らまほしきを 36㊦

宮にも 37㊦

御ともにもと 37㊦

ながれてもきみすむべしと 40㊦

うきよかはとも誰か問ふべき 40㊦

わが身にも世をうぐひすと泣きをれど

52㊦

そこにもいかにとなむ 57㊦

夢にも山の君の見え給ふをりは 57㊦

やまにてもいかにつきせずおぼすらむ

66㊦

こなたにもなどか渡り給はぬ 73㊦

しのびてもいでも 74㊦

しのびてもいでも (74㊦)

いかにそこにも 75㊦

そなたにも参らまほしきを 80㊦

それにもしほはたるれども 84㊦

見給ひても泣き給ふ 95㊦

御文にてもありけり 105㊦

尼にても同じ山には 107㊦

巢のうち見てもねをぞなく 120㊦

身にも合はぬものどもなれど 128㊦

昔の着物にもあらねばや 129㊦

ここにもひとりのみながむる宿の 142㊦

これよりも聞えむと 144㊦

忍草はここにもや 148㊦

山に住み給ふよりも 153㊦

尼にてもうき世を離れずや 164㊦

あまとなりてもながめかるてふ 166㊦

例よりもまさりて 169㊦

あまとても身をしかくさぬものなれば

170㊦

われからとてもうきめかるなり 170㊦

忘れてもうれしかりける 173㊦

太刀はきたるさまをも見給ふとて 175㊦

それにもあはれになん 177㊦

ゑりくぐつにてもさぶらはむ 179㊦

露のいのちをもとめつる 187㊦

もののかずにも 191㊦

来ても鳴かなん 194㊦

露にもあてじと 198㊦

見えてもこころ 201㊦

くもるながらも 202㊦

わがみやまにも 203㊦

いづくへもあめのうちよりはなれば

213㊦

御弟子にもやなりなまし 218㊦

都へもさらにかへらじ 220㊦

これよりも深き山辺に 222㊦

あまがけりてもたづねとぶらはむ 234㊦

立つ影だにも見えよかし 246㊦

太刀はきたる人みても 248㊦

かたにても親ににたらば 254㊦

参り給へるを見給ひても 256㊦

水にも袖をぬらしつるかな 257㊦  
 みかさの山に入り来ても 265㊦  
 思ひしりてもあらねど 301㊦  
 よるとてもうちふすまなき 305㊦  
 みにもしみるからごろもかな 316㊦  
 ことよりも愛宮のたてまつれ給へるを  
 318㊦

や<助> 参照一いさや・いでやいで  
 や・さもや・まことや・やは

まことぞや 9㊦  
 御心がはりやし給へる 17㊦  
 それもかたくや 31㊦  
 あはれなるなにはおふやとみつれども  
 44㊦  
 もとむともかひやなからむ 49㊦  
 山よりはとぶらひきこえ給ふや 74㊦  
 かへらじとにやあらむと 82㊦  
 さもやと思うたまふれども 82㊦  
 きみが影もやそひたると 103㊦  
 まことや精進し給ふなるは 114㊦  
 ころろざしありておひいでたるめぞや

115㊦  
 昔の着物にもあらねばやおぼめい給ひつら  
 む 129㊦  
 ことひとのころもがへやしたまふらむ  
 130㊦  
 墨染のきぬはき給ふなればにやいとどぬれ  
 まさりてなん 131㊦  
 うとからずや御覧ずらむ 141㊦  
 忍草はここにもや 148㊦  
 尼にてもうき世をば離れずや 164㊦  
 いかにぞや 181㊦  
 山人はしのびてをり給ふや 181㊦  
 身をや投げてましとおほせど 186㊦  
 君やうゑし 189㊦

われやおほしし 189㊦  
 つゆのいのちやあへざらむ 190㊦  
 はなのかぜにやあたるらむ 199㊦  
 ぬる夜のゆめに見ゆやとて 200㊦  
 よかはの水やまさるらむ 209㊦  
 御弟子にもやなりなまし 218㊦  
 山路に露やしげるらむ 226㊦  
 これやててき 248㊦  
 たがはずや同じみかさの山の井の 257㊦  
 きみが影みえもやすると 309㊦  
 いであはれや 314㊦

### やは<係助>

えやは世の中をそむく 76㊦  
 時やはある 201㊦

### よく<助>

みるめかつかぬあまになるなよ 78㊦  
 人に物思はせ給へりし報いにおぼしめせ  
 よ153㊦

### より<助> 参照一もとより

中宮よりはじめてたてまつりて 25㊦  
 愛宮の御許よりきこえ給ひける 55㊦  
 かたらはぬききよりなきつ 71㊦  
 山よりはとぶらひきこえ給ふや 73㊦  
 これよりこそ聞えまほしけれど 79㊦  
 山よりときどき音づれ給ひ 81㊦  
 かの御身より涙の流れ出でぬる 95㊦  
 身より涙もいづるなるらむ 97㊦  
 ここかしこよりをかしき精進物まるらせた  
 るは 111㊦  
 袈裟より初めてひとくだりせさせ給ひて  
 121㊦  
 上の御衣よりはじめて墨染なり 127㊦  
 今よりならひ給へかし 129㊦

これよりも聞えむと思ふ給ふれど 144㊦  
 早うより心かけきこえたりし人も 151㊦  
 山に住み給ふよりも 153㊦  
 京の殿より御文に 160㊦  
 例よりもまさりて 169㊦  
 あしひきの山よりいでん山彦は 182㊦  
 あめのうちよりはなれなば 213㊦  
 これより深からむ山にこそ入り侍らめ  
 219㊦  
 これよりも深き山辺に君いらば 222㊦  
 昔より山水にこそ袖ひつれ 230㊦  
 今日よりは亀山とこそいふべかりけれ 276㊦  
 按察殿より桃園の北の方の御許に 281㊦  
 中宮より 291㊦  
 ころもさだめず今よりぞしく 305㊦  
 これよりこそ山菅のやうなりとも 314㊦  
 たもとよりぬれけむそでもまだひぬに  
 316㊦  
 ことよりも愛宮のたてまつれ給へるをとり  
 わきて泣き給ひける 318㊦

## らむ〈助動〉

## らむ〈止〉

身より涙もいづるなるらむ 97㊦  
 幼き君たちを見たてまつり給ふに悲しくお  
 ぼすらむ 282㊦  
 山にだにおはしませばたのもしくおほしめ  
 すらむ 282㊦

## らむ〈体〉

人の住み給ふらむ横川をわたりて 36㊦  
 やまにてもいかにつきせずおぼすらむ  
 67㊦  
 世の中をいかにながめ給ふらむ 73㊦  
 常にさわがしうおはしますらむに 80㊦  
 山の君の行ひ給ふらむわれ魚食はむこそゆ  
 ゆしけれ 110㊦

昔の着物にもあらねばやおぼめい給ひつら  
 む 129㊦  
 ことひとのころもがへやしたまふらむ  
 130㊦  
 うとからずや御覧ずらむ 141㊦  
 なぐさむらむをいでじと (147㊦)  
 いかかねふたからずおぼすらむと 154㊦  
 このごろはいかにおぼすらむ 160㊦  
 涙とどめずそこにおぼすらむを 161㊦  
 さぞおぼすらむ 161㊦  
 はなのかぜにやあたるらむ 199㊦  
 よかはの水やまさるらむ 209㊦  
 罪深き山いづこなるらん 220㊦  
 うらやましとぞ思ふらむ 224㊦  
 山路に露やしげるらむ 226㊦  
 君がぬるらむ露はものかは 230㊦  
 いかにか世の中をおほしおはしますらん  
 281㊦  
 御湯殿しるかるらむにとて 312㊦  
 らめ〈巳〉  
 うからねばこそ登りおぼすらめど 35㊦

## らる〈助動〉

## られ〈用〉

あやしう物さわがしく思うたまへられてな  
 む 72㊦  
 思ひすてられける忍草うとからずや御覧ず  
 らむ 141㊦  
 そへられたる歌 297㊦

## らん→らむ

## り〈助動〉

## ら〈未〉

よさりはかへり給へらむをこそは 9㊦  
 かしら剃り給へらむ姿の 81㊦

かたちことになり給へらむ御姿を 147㊦

いかにせさせ給へらむと 315㊦

りく用)

人に物思はせ給へりし報いに 153㊦

中納言殿につたへ給へりけり 172㊦

大姫君の御方につたへ給へりけり 172㊦

起き給へりけるほどなりけり 174㊦

出家し給へりし御姿にて 231㊦

きこえ給へりける 317㊦

りく止)

かたちもことになり給へりと聞けど 45㊦

かたちはことになれりとも 47㊦

ものあはれを知れりと思へば 71㊦

聞え給へり 171㊦

立寄り給へり 180㊦

わりごしつつまで給へり 215㊦

るく体)

御心がはりやし給へる 17㊦

生ける世をへて物を思ふ 56㊦

うの花のさける垣根に 65㊦

うれしう問はせ給へるなむ 79㊦

露のかかれる 94㊦

かたちかはれる影も見よかし 101㊦

常に問はせ給へるをなん 168㊦

聞え給へる御返 176㊦

立寄り給へるを 176㊦

問はせ給へるなん 178㊦

殿にて人たまへるついでに 180㊦

立寄りて問はせ給へるを 183㊦

むすべることの 195㊦

太刀はき給へる人を 239㊦

参り給へるを見給ひても 255㊦

名にたてるみかさの山に 265㊦

たてまつれ給へる歌 (292㊦)

愛宮のたてまつれ給へるを 318㊦

れく巳)

聞え給へれば 183㊦

名にはたてれど 276㊦

かくなむと聞え給へれば 288㊦

るく助動)

れく用)

この事のみ御心にいそがれ給ひつつ 7㊦

麓にいでてなかれなむ 90\*㊦

うき世の中になかれいでにし 92\*㊦

誰がことぞとおぼめかれつる 123㊦

かうぶりとられなんと 163㊦

たそかれどきはまどはれぞする 173㊦

ほだされて 195㊦

るく体)

わらはなきにぞわれも泣かるる 252㊦

るれく巳)

きこえたてまつらるれば 58㊦

をく助)

1. 体言につづくもの
2. 連体形につづくもの

### 1. 体言につづくもの

御冗人たちをむつまじきものにかたらひき  
こえ給ひて 4㊦

世の中のおはれなることをおぼししを 4㊦

我をいとひ給ふなめり 10㊦

とう禪師君を召して 16㊦

御もとどりを手づから剃刀して 19㊦

おのれをこそそのたまはめ 21㊦

御消息をだにもきこえあへずなりぬる  
21㊦

宰相中将君をはじめたてまつりて 24㊦

悲しきことをも通はし給ひける 28㊦

この世をそむきて 35㊦

横川をわたりて 36㊦

御影をだに見るまじくとも 36㊦

妹をみずはといふこともなきにこそは

38㊦

あはれなることをなむ聞えかはし給ひける

41㊦

わが身にも世をうぐひすと泣きをれど

52㊦

鳥にわが身をなしてしが 54㊦

生ける世をへて物を思ふ 56㊦

生ける世をへて物を思ふ 56㊦

物を聞えでおほしふる 61㊦

世の中をあなうの花となくほととぎす

63㊦

ものあはれを知れりと思へば 71㊦

世の中をいかにながめ給ふらむ 73㊦

えやは世の中をそむく 76㊦

恋しき人の影をだに見む 90㊦

あけの衣をけさ見れば 94㊦

涙をながす君はなほ 99㊦

身をすみがまかこまもたえせぬ 99㊦

御鏡を姫君見たまひて 100㊦

御なげきをあはれがり給ひけり 104㊦

なほ世の中をうらみてぞへん 107㊦

身をうしほやくあまなれば 109㊦

御精進をぞなほし給ひける 110㊦

おきたるめをはじめていれたり 112㊦

君がながめを思ひやるかな 113㊦

巢のうちを見よ 116㊦

巢のうち見てもねをぞなく 120㊦

これをこの姫君愛宮おぼつかながり給ふ

135㊦

母君父大殿をなむいとよく恋ひたてま

つり給ひける 136㊦

御姿をととき見え給はば 147㊦

なぐさむよをねてし(「なぐさむらむをいで

じ」ノ誤カ) 147㊦

この君を山に入り給ふべく見給ひぬべきこ

とは 151㊦

とりいる人を見まほして 159㊦

ここにぞうき世をばそむきはてなむと

162㊦

精進をさへし給ふなれば 163㊦

深く物をおぼすなれば 164㊦

水風のいもひをせましとなむ 164㊦

うき世をば離れずや 164㊦

身をしかくさぬものなれば 170㊦

いかに世の中を…見給ふとてなむ 175㊦

太刀はきたるさまをも見給ふとてなむ

175㊦

身をや投げてましとおぼせど 186㊦

露のいのちをもとめみつる 187㊦

ものかずにもあらぬ身を 191㊦

あまたのことを思ひいでて 192㊦

きみをのみ世にしのおぐさ 192㊦

まくらがみをぞおもほしきことかたらはん

193㊦

世をうしと 194㊦

つねにおもひを…もえいでなまし 196㊦

みやこをばおもひわするる 201㊦

うれしき世をぞながれては見む 204㊦

山路をわけてとふ人を 211㊦

とふ人をあはれと思へど 211㊦

君をなほうらやましとぞ 224㊦

なにをうしとて 232㊦

太刀はき給へる人を見給ひては 239㊦

山なる親を恋ひてなく 242㊦

われをいだし給はぬ 249㊦

袖をぬらしつるかな 257㊦

花瓶を四つばかり作りて 268㊦

君によはひをゆづりてぞ 278㊦

なにかわが身を思ふべき (280㊦)

いかに世の中をおほしおはしますらん

281㊦

幼き君たちを見たてまつり給ふに 282㊦  
 ちちなしごをもてわづらひぬれ 283㊦  
 世の中をなにとは思はむ 283㊦  
 おきなどもの年をふれど 286㊦  
 都をばいとひて山に入りぬれど 289㊦  
 紬を青色に染めて 296㊦  
 きてだになれむ年をわたりて 311㊦  
 われなにわざをせんとて 312㊦  
**2. 連体形につづくもの**  
 あはれなることをおぼししを見たてまつり  
 給ふを 4㊦  
 見たてまつり給ふをかたとき見たてまつら  
 では 5㊦  
 かへり給へらむをこそは法師かへるとは見  
 め 9㊦  
 同じやうにしり給はざらむをなむ 34㊦  
 きこえまほしきをこのかみもこの世をそむ  
 きて 35㊦  
 行ひ侍らまほしきを宮にもしかぞ又おぼし  
 めすなる 36㊦  
 聞え給ひけるをその北の方みたまひて  
 45㊦  
 泣き給ふをうけたまはる人ごとにあはれが  
 る 50㊦  
 泣き悲しび給ふを聞き給ひて 61㊦  
 とぶらはせ給ふを喜びてぞ 80㊦  
 参らまほしきを明け暮れのながめに袖のひ  
 ちつつ物おぼえぬになむ 80㊦  
 枕上なるを見たまひても泣き給ふ 95㊦  
 のたまふを聞きて 106㊦  
 太刀はきたるを見れば 140㊦

なぐさむらむをいでじとのたまふなるこそ  
 (147㊦)  
 心細きをいとあはれになむ 160㊦  
 そこにおぼすらむを思ひたてまつりて  
 161㊦  
 舟ながすほどひさしといふなるをあまとな  
 りてもながめかるてふ 166㊦  
 常に問はせ給へるをなん 168㊦  
 立寄り給へるをいそぎ給へばなん 176㊦  
 心細きを問はせ給へるなん 178㊦  
 立寄りて問はせ給へるをはじめは嬉しかり  
 つれども 183㊦  
 おひたるをかぜにあてじと 189㊦  
 聞かまほしきをほだされて 195㊦  
 おもひしをあなおぼつかな 198㊦  
 すまひし給ひけるをあまがけりてもたづね  
 とぶらはむ 234㊦  
 泣き給ふをおほぢぎみ見給ひてのたまふ  
 241㊦  
 恋ひなきになくを見るにぞ 254㊦  
 参り給へるを見給ひても 255㊦  
 みかさ山あめはもらじをいにしへの君がか  
 ざしの露にぬるぞ 267㊦  
 山の御すまひのあはれなるをなむ 284㊦  
 都をばいとひて山に入りぬれど恋しからね  
 ば思ひいでじを 289㊦  
 夏も寒かなるを綿物奉入し給ふ 291㊦  
 愛宮のたてまつれ給へるをとりわきて泣き  
 給ひける 318㊦

ん→む